抄録

●尿中水銀ノ鑑識

（Pharm. Ztg. 1900. No. 13.）

エム、ホエーチル M. Hoehner 氏ハ尿中ニ於ケル水銀ヲ鑑識スルニ次ノ法ヲ以テセリ其法先ツ「リーテル」ノ尿ヲ水浴上ニ蒸散セシメテ四分一容量トナシ此溷濁セル濾過セサル尿ニ純粹ナル新鮮ノ藏化加里母ヲ加ヘテ半時間六十乃至七十度ノ温ニ於テ混和シタル後之ヲ濾過シ褐色ノ濾液中ニ滷砂精及稀硫酸ヲ塗布シタル二三條ノ薄キ銅板ヲ入レ二時間六十乃至七十度ノ温度ヲ加ヘタル後此板ヲ取リ出シ先ツ水ニテ之ヲ洗ヒ次テ「アルコホール」及「エーテル」ヲ之ニ注キテ三十分時乾燥セシム尿中若シ多量（大約〇、〇〇二瓦）ノ水銀ヲ含有スルトキハ銅板ニ銀ノ如キ白キ光澤ヲ放ツモ少量ナルトキハ（大約〇、〇〇一或ハ〇、〇〇〇五瓦）只僅カニ青白色ヲ呈スト云フ

●「アスピリンノ」關節僂麻質斯ニ對スル治驗

（醫事新聞第五百七十七號）

醫學士大黒安三郎氏ハ先ツ近時撒里失爾酸ノ代用藥トシ稱用セラルヽ「アスピリン」ノ外國ニ於ケル治例ヲ引用シ次テ氏ガ東京醫科大學第一醫院內科ニ於テ實驗セラレタル自己ノ治驗ヲ述ベタリ氏ノ實驗ニ係ル患者ハ二名ニシテ一名ハ二十八歳ノ女ニシテ慢性多發性關節僂麻質斯ト診斷

セラレタル者他ノ一名ハ二十六歳ノ女ニシテ恐ク痲疾性多發性關節僂痲質斯ト診斷セラレタル者ナリシガ氏ハ甲患者ニ最初「サロフエーン」ヲ用井タルモ効ナキヲ以テ「アスピリン」三瓦ヲ三包ニ分チテ一日三回ニ分服セシメタルニ已ニ五日ニシテ諸症ノ大ニ輕快スルヲ認メ十日ノ後一日ノ用量ヲ減ジ二瓦トナシ五十六日ノ間ニ殆ンド百十二瓦ノ大量ヲ用井タリシニ毫モ不快ノ副作用ヲ呈セズシテ關節症狀ハ全ク消散シタリト又乙患者ニハ淋疾ノ局所療法ノ傍ラ「アスピリン」ヲ内服セシメタルニ其奏効ハ前者ニ於ケルガ如ク顯著ナラサリシモ亦毫モ不快ノ副發症ヲ發スルヿ無クシテ偉効ヲ奏セリト云フ

●鮑腑（あわびのつのわた）中毒症ニ就テ

（東京醫事新誌第千百七十九號）

在壹岐ノ古賀俊英氏ハ本題ニ就テ實驗セル所ヲ報告サレタリシガ其症候ハ大略次ノ如クナリシト云フ即チ本症ニハ急慢二症アリテ共ニ一種ノ皮膚炎ヲ起シ他ノ一般魚肉貝類ノ中毒症トハ大ニ其趣ヲ異ニシ腸胃ノ症狀又ハ運動機神經系等ヲ侵サズ急性症ニ於テハ前驅症ナクシテ攝取後數時乃至一日ノ中ニ直接ニ日光ニ觸ルヽ所ノ体部ニ始メ瘙痒狀ノ刺戟ヲ感ジ次テ火傷樣又ハ丹毒樣ノ疼痛トナリ患者堪ヘザルニ至ル而シテ侵サレタル皮膚ハ浸潤腫脹シ疼痛益々劇甚トナリ其周圍ハ炎性浮腫ヲ呈シ壓ニ由テハ疼痛ヲ起サヾルモ日光ニ照サルヽトキハ酷ダシキ灼痛ヲ發シ甚シキニ至レハ水疱疹ヲ生シ其破裂スルヤ糜爛面ヲ呈シ漿液或ハ稀膿汁ヲ漏シ加之眞ノ潰瘍ニ陷井

ルヿアレヒ輕症ノ者ニ在テハ病機ノ增進ハ一二日ニメ止マリ療養宜シキヲ得バ大抵五六日ニメ灼痛歇ミ浸潤皮疹モ亦漸次消退ス而メ此病ノ侵襲ヲ蒙ムル部位ハ殊ニ前額部、鼻梁、頰部、耳輪、頂部、前膊、手背、前脛部ナルモ苟モ外部ニ露出シテ日光ニ照射セラルヽ所ハ侵サレザルヿ無シト又本症ノ慢性症ハ急性症ノ治期ヲ誤リタル者ニシテ其症候ハ皮膚ノ浸潤肥厚ナレヒ發症常ニ顯著ナラズ且ツ灼痛ハ只強キ光線ニ逢フ際發スル者ニメ急性症ニ於ケルガ如ク劇甚ナラズ且ツ稀ニ見ル所ナリト云フ

（以上三項　Y S 生抄）

●茶葉中鞣酸ノ定量法

エーデル Eder 氏ニ從ヘバ茶葉二瓦ヲ綿密ニ秤量シ之レニ少クモ三回百立方「センチメートル」ノ水ヲ加ヘテ三十分乃至一時間餘水浴上ニ温浸シ次デ之レヲ濾別シ其濾液ヲ煮沸スルニ至ルマテ熱シ其際生シタル少量ノ沈澱ヲ再ビ溶解セシメ之レニ醋酸銅溶液ノ二十五乃至三十立方「センチメートル」ヲ加ヘ茲ニ生ジタル鞣酸銅ノ絮狀褐色ナル沈澱ヲ速カニ濾紙上ニ採取シ熱湯ヲ以テ充分洗滌シ次デ乾燥シ豫メ秤量セル陶製坩鍋中ニ於テ熾熱シ冷後坩鍋ノ內容物ヲ硝酸ヲ以テ濕シ再ビ熾熱シテ後チ硫酸乾燥器中ニ於テ冷却セシメ以テ酸化銅トシテ秤量ス

又初メ熾熱シタル銅ノ沈澱ヲ硝酸ヲ以テ銅ニ誘導スル代リニ該物質ヲ水素氣流中ニ於テ熱シ以テ金屬銅トナシ後チ水素氣流中ニ於テ冷却シ秤量スルヲ得而シテ一瓦ノ酸化銅ハ〇七、九八瓦

ノ純銅ニ適應シ且ツ鞣酸ノ一、三〇六一瓦ニ適應スルモノナリ　（K K 生 抄）

雜纂

●煙草ニ就テ

通常會員　藥學二年　木下貢

煙草ニハ煙莨、嗅莨、嚙莨ノ三種アリ其辛苦ナル味ハ「ニコチン」ニ因リ其芳香ハ「ニコチアニン」（$C_{33}H_{38}N_2O_3$）ニ因ル而シテ其點火燃燒ノ難易ハ灰分特ニ加里鹽類ノ含量ニ基因スル者ニシテ灰分ハ通常一八％乃至一九％ナリトス

嗅莨ハ更ニ芳香性物質ヲ以テ香ヲ附シタルモノニシテ往々鉛ヲ含有スルヿアリ

嚙莨ハ往々銅ヲ含ムヿアリ此ノ二種ハ火ヲ点シテ喫用スルノ煩ハシキヿナキカ故ニ火藥庫船中等ニ於テ多ク撰用セラル紙卷煙草及葉卷煙草ハ煙管ヨリ吸フモノニ比スレバ害多シ之レやにノ其經過中ニ於テ奪取セラル、ヿ少ナケレハナリ

此他煙草ノ代用品トシテ近來白桐梧桐臀謨大黃鬼燈藥地錦蛇葡萄櫻等ヨリ製シタル者アリ

喫煙ノ身体ヲ戕害スルヿハ化學家、植物家、醫家等舉ナ齋シク唱フル所ニシテ其毒性ヲ逞フスルヤ獨リ「ニコチン」油ノ作用ナルヿハ亦人ノ知ル所ナリ「ニコチン」（$C_{10}H_{14}O_2$）ハ無色透明油狀ノ物質ニシテ焦味アリ其煙草中ニ含有セラル、量ハ生葉ニ於テハ水分八十五乃至八十九％ナルカ故ニ「ニコチン」ハ〇、二〇乃至一五％ノ間ニアリ我國產出ノモノハ平均一、〇七七六二％ナリト云フ而シテ一磅ノ煙草中大凡三百八十八ヲ

含ムモノニメ今其十分ノ一ヲ以テ犬ニ與フレハ三分間ニシテ之ヲ斃スヿヲ得ルナリ故ニ「ニコチン」ハ兇徒ノ人ヲ毒殺スルニ用ヰラルヽヿアリ亞非利加南部ノ土人ハ蝮蛇ヲ殺スニ之ヲ用ヰ其一滴ヲ注加シテ瞬間ニシテ之ヲ殺スト云フ又園丁ハ害虫ヲ除クニ用ヰ又或ル人ハ小兒ノ頭瘡ヲ治癒セシメンガ爲メニ之ヲ頭部ニ塗布シテ死ニ至ラシメタルヿアリト又煙草ノ葉ヲ伸ハシテ腹部ニ貼スレバ忽チ嘔吐ヲ催スト之ヲ以テ古昔又之ヲ吐劑トシテモ用ヰタリ或ル奸商密賣ヲ企テ稅關ヲ通過セント欲シテ煙草ヲ体ニ纏ヒ中毒ヲ起シテ一命危キニ至リ初メテ惡計ノ露出シタルガ如キ例アリ夫レ此ノ如ク皮膚ヨリ吸收セラレテ中毒ヲ起スヲ以テ見レハ之ヲ喫スレバ必ズ有害ナルヘキヤ固ヨリ明瞭ナリトス

最近倫敦發行ノ化學新聞ニ載セタル所ノ日本煙草分拆表ハ左ノ如シ

	長門產	下野產	攝津產	大隅產
水分	六、四一	一〇、〇一	七、六三	一三、一八
灰分	一五、七六	八、四五	二〇、七一	九、八六
醋酸	〇、〇五	〇、〇四	〇、〇一	〇、〇八
「ニコチン」	三、四五	三、〇二	三、九四	一、八九
檸酸	痕跡	〇、二七	〇、二五	痕跡
「マリック」酸	〇、七九	一、〇二	一、八三	二、九九
杓櫞酸	〇、五二	〇、五九	〇、九二	〇、八九
「ペクテック」酸	一、二四	五、八四	七、四二	二、三八

此他喫煙ノ尙恐ルベキヿハ卷煙草ハ病毒殊ニ梅毒ヲ傳染スルノ恐アルヿナリキユーバ及マニラノ如キ卷煙草製造所ニ於ケル數多ノ雇婦ハ皆下等社會ノ者ニメ其唇舌ヲ以テ煙草ヲ嘗メ之ヲ卷

クカ故ニ之ヨリ病毒ノ傳染ヲ媒介スルヿアリ又クリーブランド北米合衆國ニ於テ八歳ノ小兒紙巻煙草ヲ喫シ中毒ヲ起シタルヿアリシカ其元因ヲ探リタルニ全ク点火ヲ良クセンカ爲メ製造會社ニ於テ微量ノ砒石ヲ混シタルヿヲ發見セリト云フ喫煙ノ流行益々增加スル今日ニ於テハ喫煙家タルモノ深ク注意セズンバアルベカラズ

＊　＊　＊　＊　＊

漫録

●塵界狂語

天祐

滿腔の至誠も、熱情を濺て靜ま世相を觀ぜれば、焉ぞ十九世紀英國の社界に、痛憤酷慨の言を放ちし文星カーライルが、再現と冀ふの念無くして已まんや、彼れが筆には燃ゆるが如き熱涙と、赫々たる人道の光明を包めり、彼れが理想と主義い、實ま英國々民を救ふ生命の水おりき、見よ英國の社界は、彼れよりて幾多の活動と、眞生命を注入せられたるま非ずや、歴史が説明する此事實を觀て、現社界ま想ひ到らば、此の正義人道に忠ある、文豪を慕ふの念、禁ぜざふんと欲するも得ぜ、」今の日本の社界、及び世界と、奈何、縱令宇宙と自然の壯嚴なる詩趣の慰藉を寄そるありと雖も、其半面複雜なる、現實世界に沒頭する人類は、到底此の世界的問題を、解釋せざる可からざるなり、世界的問題とは何んぞ曰く世界に於ける政治宗教學問道德を總括する活動的現像を云ふ、然り、此の活動的現像を透觀して、其内の炳々たる生命的眞理を捕捉する、

是れ人間たる者、人道と進歩と愛する者の、双肩に懸る一大責務に非ずや、然れども此の生命的眞理は、到底容易に達觀し得可き者ゐ非る也、即ち透明直截ゐる科學と雖も、哲學と雖も、未た以て茲ゑ至り得可らず、況んや漠然空想するものをや、進化論と以て有名ゐる科學大斗、ダーウン氏い、其著書を通じて一種深嚴なる聲言をなせり、曰く人類が孜々として進まんと勉めつゝある、所謂人類ゲ最后の目的として、其得んとする平和と圓滿い、逐て人類の强堅勵精なる勤勞の結果によりて、握中するを得べし、生物進化ノ原理と細觀して、其世界的終局の運命を斷言する氏が言、誰れか其内に含畜する眞理を否定する者ぞ。世界史を讀んで、吾人は轉た此言の眞なるを覺ゆ見よ古代自然民族より、今世文明民族變遷の跡を、噫宇宙なる形体ゑ存する生命は、萬古消へさる也、此生命や、實ゐ人類と世界の存在ゑ大意義を與ふる赫々たる光明に非ずや、此光明を觀ず、人間誰れの懷疑を云はん、厭世と云い ん將た非世界を云はん、卓々として夫れ安んじて可ゐらんか、然り理性の進剪、茲に至りて人生は解釋せらる可し、胸中の雲霧拂ひ去て清風の如く、宗教的安心の天地と招かる可し。然ゑ哲學的思想によりて、歷史的判斷ゐ依りて、心裡と統一したる此推理は、吾人が心裡に平和と無限の安心を與ふ、此の平和安心は、實に吾人の、宇宙と世界に對する理想なり。吾人は此の高雅にして深遠ゐる理想ゑ生活す、豈に偉大ゑして無限ゐる胸中の快趣津々たる者ゐくして可ゐらんや。而も天地の秘密と

闡くと稱する詩人は、歌ふて言とぜや、理想と現實と衝突す、此の理想によりて、希望快趣を得たる吾人ハ、此理想によりて、希望快趣を得たる吾人ハ、漸く此を去りて現實の世界を觀んか、古へより世を敎へ、人類を救ゑんとする、所謂志士仁人と、幾多の痛苦と熱心も例ふ可からざる强忍の精神を荷て出たり、彼等と實ゐ其主義と其節操とに斃れさり、彼等は人道と救世の爲ゑは其死と辞せざりしなり、彼等が精神の美ゐるは、天日と光りと爭ふ可し、而も斯くの如き大精神を有する志士仁人を出したる社界の狀勢と、內部運命は奈何、此等の志士仁人ゐよりて、社界と幾何か改美と、眞の進步を寄與せられたるや、其腐敗ハ救とれたるや、其人道の光と曇りと拭とれたるや、吾人は今の社界を觀て、眞に深慨悲痛の感に耐へさるものなり。歷史の中に葬られたる、仁人義士、何んぞ再び出でゝ社界慕するもの、渴者の飲の比ゑ非ず、而して先生は歷史の人なり、焉んぞ夢裡塵烟を高離して先生を手と握ふんか。

●漫言拾錄

井原眠鶴若老

○藪醫者の藪の字誤り　或人曰世俗ゑ醫の庸下なるものと藪醫者といふ和諺ありや又漢土ゑ見證ありや。

答て曰摩訶止觀七曰又如野巫唯解一術方救一人獲一脯叛何須學神農本草耶と見へたれは其來る事久し論語ゑ巫醫をも作へからすの朱註に巫と醫と二とそ此辨古今醫統三十卷に見へたり論語の巫醫ハ即ち野巫醫者の義とす扨和俗野巫を藪

とれもひ來るものなりといふ。

或田舍人云我在所には醫者とやまひ直しといひて病むさへなほし侍れと學文は入ぬ事也と語りき予曰邊鄙なとにていそれにてもすむへけれとも誠の醫門に在ては然るへからすそでに歷史ゑも醫政と見へて天下國家の政事の一つあり。

附記。

蓋學聖人之道化聖人之敎謂之明明德明本是心之體也故見正理則知正理聞正理則識正理自然而不可揜焉不學道者則不能明明塵埃汚染如不磨鏡故所見聞者喪正理反邪正無以卓見定識見邪黠幼妄即心爲之眩務聞猥鄙細術即心爲之乱猶斷蓬惑轉風中所謂明德何在焉乎蓋又有雖未學聖道而定見已堅見邪妄小術確乎不惑之人此是良知之端万物之靈自發後明者也古昔聖人作周禮大醫院中療病之正法有四摩鍼灸藥是也然官下屬有咒禁抑醫官用正法於病者而有不得快起者則或以咒禁禱禳補助之百得一驗亦救天下之一蒼生是聖人仁術之餘澤愛而不措也如千金外臺截咒法者周禮之遺法也然漢以來風俗年降人情月陋自魔魅和尙伏魔法師咒祝巫覡占兒鬻相風鑑地理類至攫徒拐兒鼠竊白撞剪綹之徒詖淫妖妄之說紛然競起惑世誣民其徒至今日既極矣皆是頑愚凶惡蠱惑頑愚駑鈍頑鈍汚下者不幸過之則見迷瞀扇動且信而不醒稱奇談妙駭々然陷溺彼機彀之中不知爲知者之笑具豈可不痛乎金常云斗筲凡何奇何妙之有倘曰有之自古賢哲君子皆是癡心漢耳蓋王古軍妙書者筆法之熟也吳道子奇画者畫法之熟也易曰精義入神是天下萬事曰奇曰妙皆如是而已蓋如醫士以今論之所

謂聖制醫門之正法用之病家竭心盡才猶未奏其功則可辭而去也惡求微々纖々左術卑陋爲乎昔在有行大宛者至沙漠千里忽焉見彩石如玉下馬採之如大麥粒似瑠璃喜愛尙求之行五十步許又得一牧似珊瑚進步尙求又得一牧似瑪瑙懵然漸進行不覺百里逮日沒而心始驚顧乘馬莫所見四面霧籠反照亦已絕矣仰天悲歎不知前途嗚呼世之輕短慣毛愛卑々陋々賤物欲喪成業之要含靈龜朶頤終弗悲歎於沙漠闇天者蓋鮮矣自執白於而指麾門下之特何顧細沙乎故古人曰爲學大端在於立志功哉深哉

○禁厭師　上古にハ大醫院の下屬に禁厭師有まじなひせし事也故ゐ醫書も古書にとまじなひを載たり摩針灸藥外療にても治せされとまじなひ秘除までも行ふものを醫門の下に置給ふは聖人民を救ひ憐み給ふ仁政の餘惠ゐるゐ。

○心神　神者人之主將寐在脾熟寐在賢將寤在肝正寤在心と性理要錄に出たり人の可知要語ゐり程子曰心要在腔子裏腔子とハ俗のいふからだといふ事なり要とはわかひもとむる事なり心は一身のなれゞ不斷常住身の內ゑ存在して放心せされき日々ゑ自ら身の守り有て萬事不義非禮に落る事を免る敬と心身と治るの要也敬心を失へハ物の規矩ゐし。

○聖人ゐ夢なし　曰文中子ゐ至人に夢なしと有至子といひ聖人とと實ハ名を異ゑするのみ。或人又問て曰く大凡夢は如何ゐるものにや。曰く心氣の動くゐり又風寒暑濕等ゑ因て見る事多し近くと雜病指南といへる小冊子の卷尾に載そる所大ゐ人ゐ益ゐり又夢に鬼と交るの類は皆病な

り又周禮に占夢の官ありて夢を考ふ事見へさりといへども今にしてれもふに正夢瑞夢といふ事い一生のうちに一度有や無やの事なるべし百人が百人皆雜夢といふものゐて吉にもあらそ凶にもあらすさふに心ゐ入へからす扨夢を載るの書毛舉にいとまあらず。

○異產　或人曰釋迦佛と母の脇腹を破りて生ると申傳ふ是も怪異の說といひて衆人を惑はすよ非すや。予答曰天地の大なる常道の外變体有あやしむへきに非す中華にても楚國に祖陸終といふ者子を生する事六人腹拆剖て產す先儒學者多く此事を疑ふ然るに魏の黃初五年（文帝年號）汝南といふ所の屈雍か妻王氏男子を生右の胳下剖て生る數日の間に創合て母子無恙又昔人云修巳と脊折て禹を生簡狄い胸を剖て契と生老聃は腹を　て生釋迦い右の腹を剖て生又李勢末年に馬氏脇より子を生母子ともよ無恙李宣か妻か額の瘡の中より兒を產又宋の武帝の時揚歡ゥ妻は股の中より生又宋の莆田の市人の妻男子を產股脾の間より出たり明の徐州の婦人肋下ゐ瘤と生し其中より兒を產ゥくのことき類ひ世人しらす故に獨釋迦の事のみつたふ。或人曰果して以上の如きなれは現今稱する產道い人ゐより何れの方向に變轉するならんと答曰決不然。

○胎久　郭垣といふをの母の胎內ゐ在事廿二月天師張守眞い十九月にして生れ朱應昌は五十六月にして生れ宋景濂は二十四月にて生れたり然れい十四五ヶ月なとも久しといひかたし。

○双生多兒　日本記景行記に大碓尊小碓尊同胞にして雙生し給ふ大碓尊と後に日本武尊と申奉

る是あり双生の事い五雜俎にも見へたり此外多兒を產るにて漢土にてい北魏の延興年中に秀容郡の婦人一產に四男子を產り其後も產毎ありくひとく四度產して男子十六人を得たり又後趙黎陽の民一產に男子三人女子一人を產り又明の天順年中民の妻一產に五人を產り母子無恙又天啓年中ゑ大名といふ所の民家に一產に七子を產り皆無事に成人す但し病る事あれい七人一同に煩ふ又今の清朝康熙年中鎮縣乃民一產に四子を生又漢川縣の民一產あ六子を生す一產三男を產事年〳〵あ不絕といふ。

五雜俎曰、孖生者疑於兄弟、或云後生者爲兄、以其居上也、此西京雜記所載、蓋霍將軍時已有此議論矣、然據引段王祖甲、許釐莊公楚大夫唐勒鄭曰時文長長倩勝公李黎等皆以前生者爲兄、則知後生爲兄之不經矣、嘉靖初京都民米鑑妻、二月十一生一子、十二生一子、十三生一子、近日范工部鈔內子得一女、四閱月矣、又生一男子、此亦古今所未見之事也、御按李夢陽亦曰、雙生以後爲兄者、昧化理者也、凡產必前動、謂之回轉无碍、則首始下、首下則生矣、即以受先後疑則回轉時、先氣者先出矣、斯造化呈妙之幾、所以全母子者也、亦生双子、先生者体大美長云々。

○三男を產者賜ル稻　平城天皇大同二年三月辛卯相摸國愛甲郡物部國吉が女一產ニ三男一賜稻ニ三百束。（類聚國史五十四卷）

○初生齒を生　子生れおからふ齒生たるゝ吉兆あり詩經ゑも既多愛祉黃髮兒齒と有箋に曰兒齒亦壽徵と見へたり其まゝゑ捨置は初の齒れのつから落て後更に生する事常の兒と同し世人しら

す鬼子などゝ惡名と付て忌嫌ふ事はなはさ僻事なり齒の字は年也と注しよはひと訓す又小兒すへて遲きに宜し大抵常体の趣は大戴禮韓詩外傳なとゐ見へさり餘り早さと却て宜しからす相兒經曰早坐早行早齒早語皆惡性非佳人。

○妖怪と精神病　凡古物陰氣ゐ相感それと妖怪とあふはし人を惱すもと是陰邪なれは氣力うすき人は其邪に勝事不レ能故におやむ予嘗て某が物語を聞に此ころ金澤材木町某寺の近邊ゐ久しく明家の有しを或醫者の借て移りしゐほとおく病氣付けれと是は定て久敷明家とたゑぬれい陰濕の深たこそと服藥それとも驗なく後には異症とあふいし時々迫脅くるしみ欝々として前後をしらす此醫者不圖れもひあたりしは我おそいるゝ始なにとおく雜具部屋の方より冷風吹來る心地すれい必す正氣を乱る是まさしく妖怪の爲ゐなやまさること覺へたり何そあやしきものも有や能々見て參れと申付たつねさせけるに怪しむへき物さらになし古き持佛堂の有間開て見れとも一物の有なし下段といふ所の戸を開是れいいかにも古き木枕一刎有のみ病人ゑ見せけれと是とう幾百年經し古物と見へたり此も乃妖となすゑ疑ひなし打割て薪を積て其中へ投して燒ゐ其臭屍を燒に異おらす病頓ゑ癒ゆ。

○奇病　妖怪ゐあらすして奇病といふもの有醫家の書に多く見へたり唐ゑ洛州の人應病をやめり喉の中より聲出てゝ自いふ言葉ゑ應へと爲の病なり其ころ各醫張文仲と調してしの〳〵の事を問ふに文仲の曰のくのとくなる病いいにしへに於て聞事なく醫經に於て見る事おし思案すへ

しとて立歸り夜と共ゐれもひて一つの工夫を得さり則本草經を持して彼病人をして讀しむにこゝに出て皆是を應へ段々讀て具母の條下に至ゞ此病さらゐ應る事を得す文仲とのまゝ具母を丸して與ふる病終に治す。

瑯琊代醉編ゐ張密といふ人性質孝行也其母病り齋戒して股を割て是とすゝむ病つひゐ愈たり又雷天錫といふもの年十一歳の時父の病急ゐり股を割て縷のとくに切て父にそゝむ飲て咽を過ると則蘇へる又天竺にても忍辱太子の父母病重き時醫者の云瞋なき人の肉を藥とすへしと太子れもふやう國中の人不瞋のもの有とて我親の藥となるへからそ殊ゐ我生きてより不瞋ゆへに忍辱と名つく自藥とならんと肉を割てゐたへて治たりと大報恩經に出たり嗚呼可笑馬馬を不ゝ食牛牛を不ゝ食人人を食て可ならん哉。（未完）

●博物雜言

藥學の竹外山人

○動物の總數　全世界中にて高等動物より最下等動物ゐ至る種類の總數は幾何なりやと云ふことは甚た難問題にして余と唯今日迄世人が別種として命名したるものゝ數と掲けむ。

脊索動物	二五〇〇〇種
軟体動物	二一三二〇種
腕足類	一一〇種
苔蘚類	七一〇種
節肢動物	三九〇四〇〇種
蠕形動物	五五〇〇種
棘皮動物	二三七〇種

腔腸動物　三七七五種

原生動物　五九〇六種

○象牙の種類　市上販賣の象牙は四種あり其一は「ギニー」「ガブーン」又は「アンゴラ」象牙と稱して少しく綠色を帶ぶる故に綠牙の稱あり年所を歴るゝ隨て白色となる其二は喜望峰象牙にして微ゝ帶黃色あり其三は印度又は暹羅象牙と稱し白色ゝして淡紅色を帶ぶ稀品なり其四は西伯利の掘象牙にして古昔の「マンモス」獸より得る所なり此四種の中亞非利加の西部より獲るものゝ最も高價にして其質緻密透明なり象牙は精しき人と牙の全形と一見して其產地の亞非利加の東西又は赤道の南北は在るを判別し得ると云ふ象の生地北方にありて高燥なるに從ひ其牙質粗糙にして劣等なり象牙の最大市場は「リバプール」はして此市場に年々輸入するものゝ三分の一は「シエヒールド」又物製造所にて使用は「アントウエルプ」も亦象牙の大市場なり亞非利加より毎年輸出スル象牙數は六千頭の象を要するが故に同洲の象は速に滅亡するに至るべし人造象牙又ハ僞象牙は其種類少なからずして眞牙の代用をなす例は白露國の植物象牙鹽酸石灰を注入したる木材其他羊骨紙馬鈴薯牛乳等を以て製したるもの野象の漸く減少するは止むを得さるが故は之を多く飼養するの利を說くものあり鴕鳥を飼養して利ある如く象の飼養も亦行はるべきものならんか。

●春の歌五首　笹岡芳名

草も木も生やしけらん雨露のめくみほとよき萬

世の春

朝日さす松の梢に和きてけさ吹きかよふ千代もはる風

春きては天の羽衣うちゝかゝ霞と雪を三保のまつばら

梓弓春のものとて見るゆめも胡蝶にかよふ花の下かせ

しらみゆく空ゝ霞の立こめてまた夜をのこす有明の月

●暮秋卒業生を送りて　輕部　里水

ふるさとゝかさるにしきの衣手よたからつゝみてかへる君かな

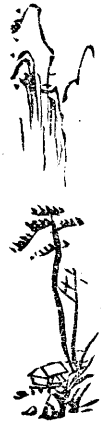
錦きてかへるふるさとゝゝひとの御酒とそ忍へて君をまつらむ

もく秋をゝはれとみしはもめにしてうれしのりけり君を送る夕

●露（節錄）　中西　三緣

宵闇の靜かさ聞くや露の音

露一つ落ちて聲ある夕かゝ



會報

●叙任及辭令

東京帝國大學醫科大學助手　敷波重次郎

任第二高等學校教授叙高等官七等（十一月六日）

第二高等學校教授　敷波重次郎

八級俸下賜（十一月七日）

陸軍二等軍醫從七位勳六等　村田　醇
同　笠間　太作

任陸軍一等軍醫（十一月十二日）
陸軍一等軍醫　村田　醇

補野戰砲兵第一聯隊附（十一月十二日）
陸軍一等軍醫　笠間　太作

補工兵第一大隊附（十一月十二日）
陸軍一等軍醫　鶴見金十郎

賜一給俸（十一月二十二日）
陸軍三等軍醫正八位　本多　勝久
同　田上　渉

任陸軍二等軍醫（十一月十二日）
輜重兵第一大隊附陸軍二等軍醫　田上　渉

免本職補東京衞戍病院附（十一月二十二日）
石川縣珠洲郡飯田尋常高等小學校醫兼正院尋常高等小學校醫　池田　耕

石川縣珠洲郡東若山村立小學校醫兼務ヲ囑託ス
年手當金六圓給與（九月二十八日）
陸軍二等藥劑官從七位勳六等　淺野駒太郎

叙勳五等授瑞寶章（十一月）
吉村　新六

體操副科柔道教師兼學生課勤務ヲ囑託ス（第四高等學校）
倉木鑄太郎

圖書課勤務ヲ免シ教務課醫學部臨床講義室勤務ヲ命ス（同上）

●會員動靜

▲敷波重次郎氏　本校卒業以來東京大學解剖學

教室に入り久しく斯學の研究に從事しさりし同氏は今回第二高等學校醫學部教授に任せられ高等官七等に叙せられさり。因に云氏は十一月八日出發赴任せられ仙臺市東一番丁五番地加藤なを方に寓居せらるゝ

▲太田他計作氏　北海道函館病院に在勤せられしも今回越後六日町病院に轉勤せられたり

▲中川幸庵氏　曩に永樂病院醫員となられさる同氏ハ今回傳染病研究所へ研究生として入所せられたり

▲望月慶作氏　と今回靜岡縣庵原郡辻村に於て本會に緣み十全堂醫院を設け開業されたる旨報知ありたり

▲橋本喜久三氏　三等軍醫として歩兵第七聯隊附たりし同氏は今回札幌歩兵第七聯隊附となられたり

▲田中一次郎氏　金澤病院内科第二部醫員たりし同氏は今回外科第二部へ轉せらる

▲北川健三氏　同院外科第二部に勤務せられたる同氏は外科第一部へ轉せられたり

▲圓山萬三郎氏　臺中衞戍病院附を免せられ鯖江衞戍病院附に補せらる

▲辻村喜信氏　止善堂病院藥局に勤務せられさる同氏ハ今回病氣の爲め同院を辞されたり

▲梶川藏重氏　ハ今回愛媛縣立松山病院に聘に應じ不日赴任せらるへしと

▲兒島亮吉氏　ハ在金澤金城療病院に入らるゝと云ふ

▲山碕主事　には客月十五日公用と帶び上京せられたり

▲櫻井教授　と去る十一月廿六日藥劑師試驗委員として大坂へ赴かれたりしが去月六日歸校せられたり

▲高安教授　獨逸國留學中の同氏は曩に巴里ゑ開かれたる第十三回萬國醫學會ゑ臨席せられ歸途瑞西、伊太利等の風光と探り今は伯林に無事研學せらるると云ふ尙同氏の近況は通信欄內ゐ揭ゆある同氏よりの來信に就て觀らるべし

▲橫山軫氏　ハ目下英京倫敦大學「ミディカル、コオレーヂ」に在學せらるゝが先頃在京松原三郎氏に詳細なる通信を寄せられたり（通信欄を看られよ）

▲八牧正孝氏　は本校齋生學敎室に勤務せらるる

▲吉村新六氏　と今回佐藤法賢氏の後任として柔道指南と囑託せられたり聞く所によれば氏は佐賀縣の人ゑして頗る斯道に練達し嘗て其道と以て長く警視廳に奉職せられ次で熊本第五高等學校に在職せられろれより久しく海軍省に勤務せられさりしがこの度我校の聘ゑ應じて來任せられたりと云ふ

▲橘薫氏　は今回共濟生命保險會社の醫員に聘せられたり

▲太田精一氏　ハ本校病理學無給助手を命せらるべしと云ふ

▲久保武氏　東京醫科大學解剖學助手たりし同氏は今回京都醫科大學ゑ轉任せらるゝと云ふ

▲小島佐藏氏　は大坂生命保險會社の聘に應し同社に入られたりと云ふ

▲大西顯造氏　と七尾病院の聘ゐ應じ赴任せらる

▲安宅治六氏　ハ在金澤金城療病院に入られたる由

▲濱口廣海氏　ハ三重縣度會郡神社町大字神社港に於て靜養中との通知ありたり

▲小林茂樹、竹下麗三郎の兩氏　は陸軍委託生の故を以て見習醫官として第九師團へ入營せられたり

▲河野勇、宮井勇の兩氏　と近日中金澤病院醫員を拜命し眼科部ふ勤務せらるゝ由

▲松田龜太郎氏　も近々金澤病院內科部に勤務せらるべしと云ふ

▲駒屋禮二氏　藥學得業士たる同氏は不日開業せらるゝ由なり

▲田上淸貞氏　ハ過般東京醫科大學第一醫院眼科介補と命ぜられたり

▲小栗熊次郎氏　本校第一回卒業醫學得業士たる同氏と昨年十月出京東京大學皮膚病科撰科へ入學せらる

▲吉田幡誠氏　東京醫科大學第二醫院介補たる同氏は毎日午後大學病理教室へ通學し居らるゝと

▲吉川砥直氏　越後新發田步兵第十六聯隊より一年志願兵として入營されたりし同氏は今般除隊より付歸鄉の上一と先つ開業他日雄飛の地を爲す旨報知ありたり

▲卒業生諸氏の一年志願兵　醫學得業士關口通太郎、田中秀夫の兩氏ハ第一師團へ、小西俊三、大口富治、眞柄佐一郎、村田讓の四氏は第九師團第七聯隊へ、酒井佐太郎氏と鯖江の第三十八聯隊へ、高澤辰之助氏は第九師團第三十五聯隊へ、中西政太郎氏と第四師團へいづれも入營せ

られたり

●山崎彦太郎、鈴木仙次郎の両氏　藥學得業士たる両氏も一年志願兵として某師團へ入營せられたりと云ふ

▲村田良仲氏逝矣　賛成會員たりし同氏は先頃腸窒扶斯に罹り攝養怠なかりしも十一月七日天は一點のあはれみを垂れず氏の魂を奪ひ暗黑界へ導きたり氏い人に越え大兵肥滿よて快調豪邁勉強怠らざるの人なりき想ひ起す先の講話會場に於ける氏の爽話雄辯は復た聞くこと能はざるを嗚呼悲哉默思すれば氏の平和なる俤は恍として現いれ笑を浮べて去らんとす。

▲中島擴三氏亦逝矣　花時を得て開き時を得て落るは固より必然の理なり若し夫れ時を得ずして落んか悲是より甚しきいなし人に於て亦た然り卒業生中島擴三君の如ないは其の一人歟君實よ落花すでからさる時よ當て落るものなり

余輩始め其の訃音よ接するや夢耶眞耶驚愕悲愴落涙潺々缺と沾すを覺へす嗚呼哀哉君い長野縣の人直實温厚勉勵怠おく今秋其の業を卒ゑ二旬ならずして病魔の襲ふ所なり溘焉永眠不起の客となる嗚呼哀哉君夙よ有爲の才を抱き盤根錯節に遇ふて未た其れ利益を見ず空しく秋風一片の煙となる嗚呼天何ぞ無情なるや若し之に假すに歳月を以てせば他日美花を永遠に殘すや必せり噫昨日の青林今日落葉となる人生の榮枯眞ゐ夢の如し哀哉

▲千田榮三男氏逝矣　贊助會員たりし同氏も肺患に襲はれ久しく病床にあられしが醫藥功と奏せず過日溘焉逝去せられたり氏は金城療病院に於て内科を擔當し研究怠たらず性質從順沈毅功の舉るを切望せしに圖らざりき此悲報に接せんとは先にも村田君を失ひ今又君を失ふ天道是邪非邪は我叫ばざらんと欲するも止む能はざるかり噫

●醫學部卒業證書授與式

第十三回醫學部卒業證書授與式は十一月八日午後一時本校倫理堂に於て擧行せられ第一鈴にて卒業生及學生登堂し校長御親影を掲げ第二鈴にて職員卒業生保證人着席第三鈴の響き渡るや北條校長及び山碕主事の先導にて來賓場に入り北條校長は起ちて登壇卒業證書授與式を擧行する旨を述へ醫學科藥學科卒業生三十二名に證書を授與し終り告諭を朗讀し其將來を戒め山碕主事次て登壇一學年中に於ける緊要事項書籍器具標本の增加職員の現在數、卒業生及び現在學生の狀況等を詳細に報告したる後告辭を述べ次で醫學部卒業生總代中西政太郎氏及び藥學科卒業生總代駒屋禮二氏は答辭を朗讀し式を終わたり當日の來賓は米谷貴族院議員横井第九師團軍醫部長縣官軍醫縣市立の各學校長及紳士等五十余名なりき

當日證書を授與せられたる諸君は左の如し

醫學科　二十九名

中西政太郎　兒島亮吉　濱口廣海

中島　擴三　八牧　政孝　大西　顯造
關口通太郎　河野　勇　藏　尙太郎
小西　俊三　小林　茂樹　松田龜太郎
宮井　勇　大口　富治　眞柄佐一郎
安宅　治六　林　義輔　高松　岩吉
小島　佐藏　高澤辰之助　越野義三郎
高田　範國　酒井佐太郎　梶川　藏重
松王　數男　村田　讓　田中　秀夫
竹下麗三郎　池田　秀雄

藥學科　三名

駒屋　禮二　山崎彦太郎　鈴木仙太郎

●卒業生送別會

十一月八日午後三時金谷館に於て開會す定刻に至りて職員卒業生市內開業醫病院醫員學生等着席發起人總代富野佳照君起て開會の主旨を述べ次て湯本四郎右衞門君は理想の醫師たふん事を切望し三年級總代土田久三郎君は寫腔の赤誠を以て卒業生を送り山碕芳太郎米澤啓長谷川葛の三君と喋々獨逸語を以てし卒業生總代中西政太郎君と答禮の辭を述べ終て別席に於て茶菓を饗し十分間の休憩の後再び着席先づ木村教授登壇左の演說あり

君等は恰も航海術を本校より學ばれたるものにして內海の如きと既に教授の手に依り無事なりしも本校を卒業しては海洋を航海せんとするに似たり海は夫れ常に平坦なるものに非ずして船を呑まんとする怒濤あり船を覆さんとする暴風雨あり勉めざれば危く覆れば魚を飽かすのみ社會は君等を迎ふるも航して彼岸に

達せんとの事容易にあらざるなり。且つ大學に於ての年々學士を增して止まず故に彼等は遂に銳利なる學士の名稱を肩として進軍せん其時に際し諸君は之を防ぐの道を講せざるべからず而して之に要する最必要なる軍器の勉强にして若し學理に富める城砦を構へさる時の彼等は一戰の下に君等と片田舍に驅逐して終生都會に出て、手足を延ばすの時あからしめん云々

次で櫻井敎授壇に登り頗る輕快の辯をふるひ次の演說をなされたり

木村敎授の諸君の前途を航海に例へられたれ共我の之と內閣に例へん君等は今既に內閣總理大臣の倚子を得られたるあり其名大なるに從ひ責亦大として其下に各省を置かるべからず外交には或の陸海軍を用ひざる迄からさる事も有る可く電信郵便の遞信省に屬し各省中開業に際し尤も難局あるは大藏省にして是等を能く經營せんとの君等の政治的志想實に大なるに居る宜しく內閣轉動の如き不幸と排して世に立れん事を尙ほ終に諸君に希望する之君等は大なる病院を建て多くの藥劑師を傭ひ其藥劑師をして本校卒業の得業士にして多額の月給を給せられんことを云々

次に登壇せられさるの北條校長にて氏之徐ろに口を開かれ曰く

余は學校に於てこそ四角な顏もすれ此席場に於て之圓い顏で圓い話を試みんと。思ふに豪傑ある者の皆豪傑なるに非らずして機無ければ豪傑となること能ざるなり康熙字典に依

れた百人に優れたると豪と云ひ千人に優たるを傑と云ふとあり之に依れば今の世と既に豪傑の續々出でし時なり今數學的に之を解釋せは諸君等も皆既に豪傑さるなり蓋し小學より高等小學に入りし者は其十分乃一と假定し之より中學に入る者も恰ど十分の一に減し又進みて高等學校に入り業を終る者をも又十分の一と仮定せば諸君は既に萬人に對する一人にして萬人の中に諸君の如き位置を占むると一人なり之を豪傑の意義に依りて解釋すれば既に豪傑以上の人なり故に豪傑たる諸君今後の責い甚だ大なるものあり諸君勉めよやとて諧謔の内にも訓戒を與へられたり

次で金子教授登壇述べられて曰く

我今此會に臨みて思ひ出したる三つの嬉しき事項あるなり其一い今回の卒業生と我か赴任したる當時の一年級諸君として四年間全く學校に生活を共にしたること其二と我々等が常に必要と主張せし獨逸語の益々隆盛の運に向ひ昨年の卒業生送別會の際には獨乙語にて演說せしもの僅に一人に過きざりしが今回に至りてと諸君の内より四五名も得意に獨乙語にて話されたる事其三い我も今と老ひて十万億土の既に鼻の先にかゝれることゝて今に初めぬ先生の頓才拍手喝采見上ぐれば既に壇を下られたる後なりき

引續き登壇せられたるい山碕教授にて氏は

發起者の希望に依り獨乙語を以て演說せんと述べ酒の有害なるを說き酒無れべこそ此會の斯くも樂しくも有れとて辯をふるひて水を決

する如く吾輩として解し易きを勉め能く數万言を連ねられたり

次にて小川教授登壇

入學と卒業とと我をして例せしめんかは姙娠と分娩とは如し諸君は四年前本校か姙娠せられ今や分娩の榮譽ある諸君は會なり然し分娩せられたる諸君ハ實か初生兒ゑして傳もなく世に立れんとす世道常に平坦ならず能く意を注かされば危しとて屢々奇語を交へて將來を戒められさり

終て淺野川病院長米村吉太郎氏は舊卒業生と新卒業生との連絡か就きて希望と述べ大聖寺病院長波多野彌五郎氏ハ診斷に就きて用意周到からさるべのふさるを述べ閉會せしと時既ゑ十時なりき。

●第十八回講話會

十月廿七日午後六時より講話會を臨床講義場眼科教室に開く會者數百場に滿ちて餘地かし木村講話部長開會を告げ順次左の講話ありたり。

第一席　腸腺腫に就て

贊助會員　東　良平君

木村教授の「クリニック」に於て實驗せられさるものゑして氏ハ其實物及び切片標本を供覽し說くこと懇切初學者をして能く其意を得せしめさり。

第二席　匙加減

藥學科第一年生　猪飼　公臣君

天羅萬象皆悉く匙加減と說き醫業の最も慘酷なるを慣し後醫藥分業の事か及び當時拙醫の之か口ばさむ有ると大に國家の爲めに慨し我

等ゐ良醫たらん事を切望せられたり。

第二席　二室性陰嚢水腫の實驗

贊助會員　村田　良仲君

本病發生の理諸大家の實驗及統計上其數の少きを示し本病を實見するを得たるゑ實に僥倖なりと述べて恩師木村教授に謝し言を吐く朗々數萬言を連ねて聽者の耳をして飽かしめず氏の實見せられたるを說かれたり尙ほ詳細ハ原著欄內ゑ出る筈ゐり。

第四席　獨逸の學校（獨逸語）

特別會員　湯目　隆績君

氏は多年獨逸に於て研究せられたる明快の辯と以て全國學校制度、小學中學の程度、終りゐ大學數生徒數及其所在住民の數等を細說せられたりしが場內肅として聲を發するものなく拍手の中に壇と下られたり。

第五席　新藥に就て

特別會員　櫻井小平太君

氏ゑ特意の輕快ゐる辯をふるひ新藥の定義を下すこと困難なること及び其數は吾人の豫想外に出で一般ゐ新藥と稱せらるゝもの既ゑ二千有餘種ゑ達し而して新藥の日ゑ〳〵續出するゑ近來專ら有機化學ゑ長足の進步と爲せしに依るを說かれたり。

第六席　學理と實地

特別會員　山碕　幹君

學理と實地との關係より說起して學理は實地より出で實地ハ又實に學理たる所以と明らし嘗て在任せらたる松江病院に於ける實例よりして草根木皮灸點按摩亦叨りゐ排斥す可きも

ゝために排除さるゝに至りたる事柄等を例証として獨逸語を以て述べらるゝこと頗る流暢吾人の本日の集會に於て劈頭此快論を聽きて欣喜の情に堪ゆさるものありき。次に

佐々木教授は「盲目に就て」と題し先つ眼目は身體中の最要具にしてこれゐよりて智識交通の進歩從つて社會の進歩を計かり得るも若し此要具にして不幸廢絶に歸せんか社會の進歩上將た國家の經濟上尠からざる損害を來す者なりと起論し歐州大家の統計と氏か名古屋醫學校在職の際蒐集せられたる統計とを比較して在來盲目者十人の中少おくとも其八人は眼病の適切なる治療法よりて之を豫防し得るものありと斷決し現に痘瘡「ブレノロヱ」の稀となりたる以來盲者の數の大ゐ減するに至りし事よりして尚眼科治療事切なりき

右數番の演說ハ悉く拍手の中に迎へ且つ送られ終つて木村教授閉會を報じ散會せしは時正に十時なりき。

●第十九回講話會

同會は十一月二十四日午後六時より臨床講義場眼科教室に開かれたり先づ通常會員大沼明氏演壇ゐ登られ,Nützlichkeit der deütschen Sprache als Arzt" なる演題の下に獨逸語の研鑽は醫學者にとりて最も必要なるものゐして比較的進歩しさる歐州の醫學を窺ハんため且つ新に發見されたる事柄を知らんため是非修めざるへからざることを論じ古來よりの我國醫學進歩の變遷に徵し所謂漢法なるものゞ遂ゐ彼の蘭學ゐるもの

法の研究次第によりて大に盲者の數を減し得べきものなりと論ぜられたり。次には

通常會員佐伯亮齊氏と「實驗」に就て氏が經驗せる種々の面白き事柄より就きこれ亦獨乙語にて述へらるゝこと頗る輕妙譬喩の頓才ゐ富みたる頗る賞すべきものあり聽者をして坐ろゝ破顏せしめたり氏も亦一個好良の才人なるかな。夫れより

「化學の記號」に就て通常會員戸田伊代治氏述べらる先づ醫學者ゐ化學の必要なる事と今更言ゝずもかゐ然るゝ通常の醫學生を見るゐ化學は頗る複雜なる學科にして專究の餘暇到抵研究し得ゑからざるものとおし居ることの抑も誤れる事より特に有機化學ゝ就て其根原より推して研究せば外觀上極めて繁雜ゐるが如き化合體の記號も之を知ること掌中の皺線を見るより尙容易なるものゐりと論し其化合体の原則より他の複雜なる化合體を誘導する規則、方法等ゐ就て淳々として說明の勞を取られたり

右終りて五分時間休憩ゝ後

下平教授と「鼻病に因する反射的神經症」なる演題の下に先づ反射的神經症の意義と解き明かし次で種々の鼻病には亦諸種の神經症を發起することを詳論ゐられ終りに慢性の鼻疾患にして殊ゝ鼻腔の閉塞を來すものは常習頭痛、眩暈、記憶力減亡、氣力減衰、鬱憂等種々ゐる精神機能の不調症即ち Guge 氏の所謂 „Aprosexia nasalis" を起さしむるものにして此症ゝ幼年者青年者を問はず特に學生ゝ取りてゝ最も等閑に附すべのゝざるものなるを說られ斯かる神經症を

呈する患者にも鼻病の有無を檢査することの極めて喫緊なることを論ぜられたり。次で登壇されさるゝ

通常會員氷澤啓氏ゐ〜て氏も „Ueber den Gesundheitszustand von Japanern" ゐ就て論せんとて獨逸語ゐて述べらる氏か得意なる語調も一瀉千里立板に水もたゞならざる勢ひ先づ本論に入るに先ち日本國の氣象地勢ゐ就て精密なる觀察と下されたるも惜い哉氏は數日前より二豎の襲ふ所となりて其危辯と振ふの苦患に堪にず、悄然として壇を退られたるは實に近頃の一大恨事なりき。斯くて當日本會の掉尾として小川教授壇ゐ登らるや悠々極めて泰然たるものゐてありき演題は「兄弟の說」なり先つ字形より說き起して意義ゐ及び次で種々の方面より定義を下せり辨說の間自由に諧謔の分子を交へて或も過褒或も揶揄鋭鋒殆んど面を向くべからざ氏ゝ主とまて產科學及ひ胎生學上より其姙孕の地位及び時期ゐ就て其兄となり弟となるべき順序區別を細論せられたり尙續いて述へられんとしたるも時刻既に迫り未だ其半もを了へずして壇と下られさるは遺憾なりき此日來會せる者約三百餘名實に近來稀ゐる盛會にてありき。

●弓術部競射畧記

時維れ明治三十三年十月二十一日金風颯々として枯葉を拂ひ銀塘露冷淘に是れ雄心落々として揮身の覇氣抑へ難きの時而かも斯道熱心家が七旬長暇の間ゐ鍛ゑ得たる其腕を養ひ得さる其胸を撫しつゝ今や遲しと待ちゐ待たる弓術競射會ゝ例の弓術場にれひて開かれたり

出席員凡て六十餘名午前九時尺的にて通常射的始まり次に職員競射行はれ正午より本日の主眼さる各部撰手競射と始まりぬ那須の宗高なりねども血氣に逸る得意の面々弓矢片手ゐ悠然と練り出てゝ見れゝ的と正く十五間年來鍛ひ上けたる乃公の手腕個程の近距離何うあると滿月に引き絞り矢聲を切て放てと見事颯々音して黒點と貫き滿面笑を含むもあれゝ骨折損の効なしとて頭を掻きつゝ退くあるとゐくて本日我醫學部中撰手たりしは

前田豐作　笹田順三

の兩氏なり次は源平紅白競射ゐして我を我もと腕に覺ゑの面々が氣合と計り秘術を盡し引きてと放ち張りてゝ放ち遂に紅の勝とはゐりぬ。閉會午后四時。

●秋季陸上大運動會記事

秋高くして、馬肥ゑ、天朗らかゐ、氣澄める、滿目の風光、金風朝に微扇して梧桐一葉を飄へし、黄木蕭草、夜々嚴霜ゐ苦んで叢虫既ゐ聲を潜む、方ゐ是北帝の駕して來らむとするの時ゝ維れ、十一月三日例に倣ひ　天長の嘉辰を卜して、我校友會秋季陸上大運動會は開かれむとそ、羽檄連りに飛んで、委員の分擔部署已に定まり成算將ゐ歴々たらんとするゐ臨み、玆に準備の日數に就きて端ゐくも上下の一致と欽き、諸般の經營未だ成されす、或一部の委員の辞職となり、あはれ滿校の健兒か鐵脚を鍛ゑて翹首鶴頸、待ちに待ちたる我陸上大運動會も、一時と不成立の悲運に遭遇せんかと、私かに眉を顰むるるのありしが、神聖なる嘉辰、特に國民の諧に俱

お相嬉喜して以て愉快なる一日を祝ぐべきの日に方り、いのでかさる不吉の擧を爲すべき、と熱心なる委員の東奔西走奮勵せしより茲に愈遂行の幸運と開けたり。

時は維れ十一月三日、二發の號砲と轟然乾坤を撼ゐして萬人の夢を衾床の中よりと奪へり、蒼天高く清んて點塵迷はず、駘蕩として陽春三月の候に似たり、午前七時、神聖なる倫理講堂は開かれ、勅語は捧讀せられ、

御眞影拜賀式終はる、北條會長は徐ろに此清麗なる好期ゑ際し、我校友會員一同諧に愉快に壯遊を試みんとの旨と述ぶ終りて、一同辞して出つれば、

昨日までは蕭條たりし校庭い忽焉として一大演技場と化して先づ双眸の間ゑ落つ、數百の旗旆は翻飜として朝風に搖き、空を摩するの老榎い紅焉の錦を纏ふて、一段高き會長席を掩ふ、此處ゞ桂冠と賜ゑる可き論功行賞の所、左右には來賓、職員家族、保證人、競技者等の憩する所あり幔幕緩く垂れて倚子列を成せり、二丁の環柵とめぐるの間、各學校生徒席順劃せられ、特に尾城崖下お對して樂隊席あり、賞品席お相對して衞生部あり、更に一歩を轉すれば時習寮の西端お沿ふて梧桐庵あり、寮生の賓客を待つ所、場の西端仙石街ゑ對ひて醫學部一年の秋楓亭あり、茶菓を具へて來賓に饗せんとす。

午前九時、委員と各部署ゑ就き、番組掛の呼聲に應じて競技者現れ出でし者僅に五名、鐘鈴高く響き、號砲頓ゑ發る。

第一回　二丁競走と、總勢の少き爲めの、觀衆

をして落寞の嘆聲と嘲やかさしめぬ。

第二回　スプーン競走

砲聲一發走る事未だ十歩ならずして球を墜せ、蒼皇スタートゐ還り再び驅け出す、或は半周ゐして倒れ或い一周に垂んとしてスプーンを抛つ者、孰れも戰々競々球を護りて走る、天乎命乎將た僥倖乎。

第三回　四丁競走

一等　中大跡氏爲　二等　堀田　圭三

三等　森岡喜三郎

第四回　戴囊競走

疾く走らざる可からず頭上の囊を忘るゝの恐あり、心と囊とのみ注がば脚意ゐ從わざらん、囊脚の間一髮を容れぬ戴囊の技亦難ひ哉、宜なり五歩にして落ち十歩にして墜す、一周を完ふして功と專らにせしは、

一等　柏木　敬介　氏一人而已。

第五回　一丁競走

一等　吉村　一馬　二等　伊野宮長民

三等　岡田　剛平

第六回　武裝競走

ズボンを穿ち上衣と着け、草鞋背囊劒銃、走てつゝ鎧ふもの、草鞋背囊劒等と抱ひて決勝点眞近く裝ひ初むるもの、各思ひ〳〵の兵法に先登第一の功を搏せむと勗む、或い倒に背囊を擔ひ片足に草鞋を穿ちて走る者、孰れも哄笑の種ならぬとなかりき。

一等　蘆澤　孝治　二等　士田久三郎

三等　渡邊　十治

第七回　二人三脚競走

両々相擁して二頭三脚、走る事違駄天の如く連年先登の功を壇にせし駒井藤原二氏がハンテーも物かゝと疾風の如く勇進せしも越田松村二氏が長脚大歩ゝ電光の如く數十歩を抜て天晴魁の名ゐ背ゐざりしゝ壯快也。

一等（越田信吉　松村魁）　二等（駒井定哉　藤原敏夫）　三等（青木正枝　佐藤軒二）

第八回　障礙物競走

驀然進んで板塀と超え、地網にもつれ高架階段を攀ぢ濠と跳ひ、地平方眼柵を跨ぎ吊素横木に吊り下り、圓筒を潜り攀索ゐ苦しみ、九木橋と亘り遂に二重の低檣と躍り超ゆ、十種の障礙物巧ゐ之と通過して勝を決勝点に下す、勞苦亦決して凡事に非ず、時に猛虎の如く脱兎の如く、駿馬の如く、鷲の如く、猿猴の如く、蝙蝠の如く、飛鳥の如く、愈出てゝ愈奇、觀衆をして思ゝす手ゐ汗せしむ。

一等　神藤純一郎　二等　小山　庄治
三等　江崎　恒人

第九回　戴嚢競走

一等　武曾　三郎　二等　九山　六郎
三等　池野　清政

第十回　サック競走

號砲一發、唯見る手ゐく脚なきノヘたる褐色の一怪物一度に跳ね起りて其飛ぶや蝦蟇の如く或は半途にして倒れ再び起つ能ゝざるあり、衆人悉く頤を解き哄笑の聲怒濤の如し。

一等　中田　久　二等　横山與太郎

第十一回　一丁競走

一等　白石　喜之　二等　毛利　静一
三等　鷲山他三郎

第十二回　竹馬競走

駒の足並勇ましく乘り後れじと駈け出す、途未だ半ならずして脚を折り敷いて我馬斃を絶叫するものあり、大半路に仆れて左顧右眄悠々と乘り入れしは、

一等　鳥山　正彰　　二等　長井　運男

第十三回　スプーン競走

一等　月原　秀範　　二等　後藤　義賢

三等　柳澤　長藏　　四等　土田久三郎

五等　神藤純一郎

第十四回　戴囊スプーン競走

一等　細田　榮　　二等　龜川　兼吉

三等　芳野　林翁　　四等　庄司　純吉

第十五回　武裝競走

一等　秋山　齋雄　　二等　松扉　得悟

三等　佐伯　亮齋

第十六回　擔荷競走

一等　藤田藤右衞門　　二等　太田　長作

三等　尾崎　平吉

第十七回　二丁競走

一等　逢坂元吉郎　　二等　羽根田信次

三等　中小路氏爲

第十八回　擬馬競走

一等　川口熊夫　　加治遠平　　森　公平

松村四郎

第十九回　障礙物競走

一等　山田伊之助　　二等　佐藤　軒二

三等　水沼　知一

第二十回　學術競走

スタートを去る半丁餘にして蒟蒻板あり摺りたる數學問題の厚紙板あり添ふに鉛筆を以てす、裏面に運算答解を書し以て決勝點に入る、走りつゝ筆を驅るもの、端坐首を傾くる者、機略百出、早くも撰に入らぎ、遲きも賞を受くる者あり。

一等　河合　忠次　　二等　江端　吉平

三等　土田久三郎

第廿一回　スプーン競走

一等　武曾　三郎　　二等　笹岡　芳名

三等　小幡　學雄　　四等　大澤次三郎

五等　原田　正廣

第廿二回　武裝競走

一等　中島　喜作　　二等　高桑勇次郎

第廿四回　戴囊競走

一等　松尾　　等　　二等　久津木勝作

三等　新　　次郎

第廿五回　二人三脚競走

一等（鳥山正彰　堀田圭三）　二等（神坂勇治　毛利靜一）　三等（安藤淨眼　星　政一）

第廿六回　背進競走

一等　山田　又一　　二等　下村義二郎

三等　石井　光雄

第廿七回　二丁競走

一等　井上　隼雄　　二等　加畑　一吉

三等　宮崎　稻作

第廿八回　四丁競走

一等　松山　俊夫　　二等　米澤　恭一

三等　細田　榮

第廿七回　巾飛競技

第三十回　高飛競技

一等　辻村　耕夫　　二等　片岡　正

第卅一回　竿飛競技

第卅二回　スプーン競走

一等　藤原　敏夫　二等　山田　虎一

三等　中大路氏爲　四等（不明）

五等　前野　七郎

第卅三回　戴囊撰手競走

一等　林　政雄

第卅四回　學術競走

第卅五回　一丁競走

一等　松村　魁　二等　林　龍門

三等　三谷彰三郎

第卅六回　片脚競走

一等　石田　他八

第卅七回　部隊競走

一等　鷲山他三郎　羽根田信次　藤坂友次郎　堀木　眞澤貞一　館　昇榮　林　良吉

第卅八回　網引

第卅九回　衞生擔荷競走

一等　增田貞吉　井原　悟　牧　良一

二等　井口正察　三野賢吉　富田稔麿

第四十回　二丁競走

一等　駒井　定哉　二等　野村　某

三等　土屋　米二

第四十一回　二人三脚競走

一等（駒井定哉　藤原敏夫）二等（吉田　誠一　濱地藤太郎）三等（安倍邦衞　林　茂）

第四十二回　一分間競走

一等　林　豐丈　二等　伊藤　顯德

三等　逢坂元吉郎

第四十三回　武裝競走

一等　土田久三郎　二等　山崎　內藏

三等　伊野宮　長民

第四十四回　來賓競走

一等　渡邊　二等　北川　三等　北村

第四十五回　四丁撰手競走

第四十六回　二人三脚撰手競走

一等（越田信吉　松村　魁）

第四十七回　障礙物競走

一等　山田　某　二等　中島　喜作

三等　河野　隆

第四十八回　一丁撰手競走

一等　松村　魁

第四十九回　學術競走

一等　朝倉　重敏　二等　入山　義信

第五十回　二丁撰手競走

一等　駒井　定哉

第五十一回　職員競走

一等　河島　重平　二等　大瀨　謹一

三等　竹田留次郎

第五十二回　武裝撰手競走

一等　宮越常次郎

第五十三回　スプーン競走

一等　藤原　敏夫　二等　駒井　定哉

三等　沼田甚次郎　四等　佐伯　亮齊

五等　廣塲　敦貴

第五十四回　擔荷競走

一等　佐藤　軒二　二等　島津　某

三等　土田久三郎

第五十五回　六丁競走

一等　松山俊夫　二等　林　三等　下村

義二郎

四等　蘆澤　孝治

第五十六回　學術撰手競走　ナシ

第五十七回　戴囊スプーン競走

一等　藤原　敏夫　二等　井上　隼雄

三等　沼田甚次郎　四等　柳澤　長藏

五等　松田　研吉

第五十八回　竹馬競走

一等　庄司　醇吉　二等　高田　某

第五十九回　障礙物撰手競走

一等　山田

第六十回　委員提灯競走

一等　尾倉　一英　二等　新　次郎

三等　越田　信吉　四等　柏木　敬介

五等　辻村　耕夫

第六十一回　サラダ競走

一等　笹田　順二　二等　津田直次郎

第六十二回　公立學校撰手競走

一等、二等、三等　第二中學校

第六十三回　各級撰手競走

一等　米澤恭二（醫三）　二等　藤原敏夫（醫三）

三等　松山俊夫（醫一）

第六十四回　一哩競走

一等　柳　榮太郎　二等　沼田甚次郎

三等　松山　俊夫　四等　山田伊之助

五等　藤原　敏夫

右の如くあーて技と一去一來愈々出て愈々奇且つ妙、觀衆の拍手喝采は絶へす尾城涯上の古松を摩もつゝ技と茲に全く終りを告げぬ。

會長は直ゐ委員を壇下に招き眉宇怡々諄々として奔走斡旋の功を勞らひ特に本日不幸ゐして不

圖委員の一致を欲くゝ至りしも技に聊かの障滯を見るなのりしゝ實に滿足ありしその意を述べられ次て會長の音頭に伴ひて勵聲一番衆相和して國歌「君の代」を唱へり時あ夕陽漸く西山ゝ春かんとして燦然名譽ある健兒の胸邊を射て一層の榮を添へ餘光淡く尾城天崖の雲を彩りて晩秋の晡景實ゝ清く茲に我陸上大運動會は全く滿足に畢りを致せるも只少しく憾とする所は大學豫科委員一部の辞職となり技い全く我醫學部專演の趣きありて觀衆として時に幾分寂寞の感を抱あしめし事ゝりき。

吾輩は本日の運動會に於て特に名譽ある傑士として永く榮名と表彰す可きい駒井定哉、米澤恭二、松村魁、山田伊之助の四天王及び藤原敏夫、松山俊夫、柳某、沼田甚次郎、林豐丈、土田久三郎の諸氏なりき。希くば諸氏益々自重して長く過雲吐寛の覇勇を墜すなのれ。

●解剖遺體の法會　十一月十七日午後一日野田寺町立像寺に於て施行されたり此日風雨暴しかりしも解剖遺體の靈を吊ふ事の熱心なる我同志いとゝ挫かるゝ事無く集る者百數十、裝飾寓般周倒にして定刻ゝ至り方丈と遺體の牌ゝ向ひ端坐し僧十有一人讀經懇寧數時ゝ渡り、北條校長先つ抹香し次で金子村上兩教授の燒香續て小川、下平、佐々木諸教授及助手、醫學科四年三年生總代の抹香ありて式を閉ちたり時恰も三時。年當日の參詣者いゝ遺族數名校長主事初とし醫學部教授助手大學豫科教授三竹氏及學生なりき。

●實彈射的　十一月九日快晴醫學科第三、四年級、藥學科第三年級生一同は體操教員ゝ引率せ

られ上野練兵場に於て實彈射的と學行し終て歸校せしと三時半ありき。

●第二學期學科目及時間割表　と今回會員諸君の便と謀りて別に一枚刷として本誌に挿入そることゝせり。

●金澤病院新築案の通過　前號記載の如く金澤病院わてと先頃新築費金二十七萬圓の豫算案を其筋へ提出せしが山碕主事初め其他諸教授の熱心なる盡力に依り金二十五萬圓を以て三年の繼續事業として新築することに昨年の縣會に於て通過議決せられたり。

●卒業生諸氏の書籍寄附　今回卒業せられたる醫學得業士諸氏より紀念の爲め本會へ知兒曼斯氏外科各論一部を寄附せられたり玆に深く其厚意を謝す。

●雜誌編輯會　同會ハ一月廿五日（日曜日）午前八時臨床講義場眼科教室に開かれたりしが出席者ハ部長下平教授を初め小川教授其他委員は主として醫科三、四年及藥學科三年生ゑして二年級よゑ一人も出席わかりしは遺憾の事共ありき

●本誌體裁の變更　本誌從來の體裁は可なゑざるに非らざゑしも今回發行せる第十六號よりは稍々體裁を變更し且つ欄を分つて原著、抄錄、雜纂、漫錄、會報、通信、公文等の數項とせり是れ余輩雜誌部委員等の敢て新奇を好みてしかわせしには非す聊ゝ亦改善を謀るの微意わ出でたるのみ若し夫れ尙會員諸君の囑望と充すを得ざることわらば乞ふ誘導補益の勞と吝まれざらむことを。編者白す。

●寄贈書目

衞生報知	一三號	同	藝備醫事	五四號	同
中外醫事新報	四九四、五、六、七號	同	公衆醫事	第四卷一〇、一一號	同
成醫會月報	二三四號	同	獨逸語學雜誌	第三年二、三號	同
助產の栞	五四號	同	教育公報	二四一號	同
日本醫事週報	三〇一、二、三、四、五號	同	國家醫學會雜誌	一六三號	同
岡山醫學會雜誌	一二九、三〇號	同	東北醫學會々報	一八號	同
東京醫學會雜誌	二〇、一一、一二號	同	藥業報知	二〇號	同
醫海時報	三三五、六、七、八號	同	藥學雜誌	三三五號	同
東京市教育時報	二號	同	產科婦人科學雜誌	第二卷一五號	同
二十世記醫事	二八、九號	同	北越醫會々報	一三〇號	同
廣島衞生醫事月報	三二、三號	同	北辰會雜誌	二八號	同
日本眼科學會雜誌	第四卷一〇、一一號	同	十二指腸蟲患者ノ診斷上ニ於ケル必發的症候ノ價値ニ就テ	一部	田中正鐸君
京都醫學會雜誌	一五五號	同	最新眼科全書(高安石人著)一部		高安敎授
醫事新聞	五七七、八號	同	知兒曼斯外科各論一部		第十三回卒業生諸氏

●會費領收

●三十三年十月以降會費領收ノ分

一金七拾五錢　自十五號至十九號　贊助會員　小西　俊三君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　崎　達郎君
一金七拾五錢　自十三號至十七號　仝　渡邊九壽松君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　酒井佐太郎君
一金壹圓五錢　自十五號至廿一號　仝　兒島　亮吉君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　高松　岩吉君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　越野義三郎君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　藏　尙太郎君
一金七拾五號　自十五號至十九號　仝　河野　勇君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　中島　擴三君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　宮井　勇君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　關口通太郎君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　濱口　廣海君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　小島　佐藏君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　大口　富次君
一金六拾錢　自十二號至十五號　仝　木下　克雄君
一金七拾五錢　自十三號至十七號　仝　野村　亮吉君
一金壹圓廿錢　自十三號至二十號　仝　池田　秀雄君
一金七拾五錢　自十四號至十八號　仝　關屋林之助君
一金壹圓五錢　自十四號至二〇號　仝　太田他計作君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　小林　茂樹君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　竹下麗三郎君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　林　義輔君
一金七拾五錢　自十五號至十九號　仝　八牧　政孝君
一金壹圓五錢　自十五號至十九號　仝　梶川　藏重君
一金壹圓廿錢　自十三號至二十號　仝　渡　孚貞君

●會費未納の諸君に告ぐ　本會贊助會員にして

會費未納の諸君は至急御拂込有之度會計整理上の都合有之候に付此段敢て及請求候

＊　＊　＊　＊　＊

通信

●高安教授の通信　在獨逸伯林の同氏より山碕主事其他教授諸君へ宛送られたる書信中より第十三回萬國醫學會の概況を記るされたるものを得たれゝ左に之を掲ぐ。

佛國巴里府に於ける第十三回萬國醫學會概況

西暦千九百年八月二日より仝九日に至る一週間佛國巴里府に於て開催の第十三回萬國醫學會參列のため像て文部省の許可を得七月三十日獨國伯林府を發し巴里府に至る但し同日同行者池田陽一、熊谷玄旦、村上安藏、芳原三吉、行德健男及小生の六人ありし會員ゝ入會金廿五法を要す尤も各國政府派遣委員と之を要せゞ會員ゝ博覽會を初め總て公開の縱覽所は開場時間中何時にても無入場券にて入場をると得又凡て衞生に關する者と縱覽をるを得るの權利を有せり瀛車賃は佛國内ゝ半減ありし(尤も同線路を往復をる者に限る)國の内外を問ゞゞ醫士の資格ある者と入會と許せり故に婦人の會員も案外多數なりし會と總會と分科會に分ち總會と三回あり分科會ゝ毎日午前八時若くは九時より諸所に開催せゞ尤も會員は自己の專門にあらざる學科會と雖とも無論隨意に出席する事を得演說の用語と獨佛英の三種に限り八月二日午後二時第一回總會と開けり會場ゝ當時開設中の萬國博覽會内式場と總會員617人其中出席者と三千余りもありしが場の一方には樂隊あり所々に兵士の警衞するを見る佛國大統領臨席あり本日と開會初日の事故來賓及會員等交々祝辞を演へ獨乙委員長ヴ井ルヒョ男日本派遣委員實吉男等も祝辞を演へられたり其他日本人にして參會せしものと

（通信）

小金井博士、山根醫學士、野田醫學士（派遣委員）桂侍醫、鶴田三等軍醫正、本堂一等軍醫（以上ハ留學生にして派遣員の資格にて參會せし者）淺山教授、内田教授、村上教授、筒井教授、桂田教授及小生（以上は文部省留學生ゴとして文部の許可ヲ依り參會の者）鈴木大監、吳、宮本、石原、平井の諸教授其他學士得業士等自費にて參會せし者十數名都合四十三人なりし分科學會場ヲ各所ヲ別れ眼科部ヲオテルヂユーと申モ巴里府立病院内大講堂ヲ毎日午前九時より集會せり演説者及參會者ヲして外國人中眼科醫として吾々の耳ヲ聞慣れたる者ハ下記の如し伯林のヒルシユベルグ、ウートレヒトのスチルレン、瑞西ベルンのプリユーゲル、ブレスラウのウートホフ、ウヰーンのベルンハイメル、マールブルグのヘッス、伯林のヲルフ等なりし巴里のウェッケルは見へざりし演題ハ中々價値ある者澤山ありしも英佛の演説や討論ヲ吾々ヨハ馬耳東風獨語演説の如きも十二分ヲ制限せられてある故單ヲ要點を摘述し學問としては會其者が直接ヲ利益をなすと云ふ事は殆どない只是が互の刺戟となり將來益々研究し口頭若くは筆頭にて玉説と戰ハさんと云ふ原動力機關ヲ過さず八月六日午後九時總會長ランチロング氏（巴里醫科大學長）の案内ヲてルキサンブルグ離宮に於る夜會ヲありイザ巴里夜會の景況を實驗せんと燕尾服ヲ着し高帽を戴き二法を投して馬車を驅り同所ヲ向ふ離宮數丁手前より左右の通路ハ先着來賓の馬車數百羅列し容易に進む能はず車上馭者の尻穴ヲ眺め安閑として馬車の徐進ヲると待つハ甚ば馬鹿氣極て居るそこで途中馬車を降り徒歩門前に至れば人車山を成し吾先ヲ進入せんと互ヲ先を爭ひ衛兵の制するあるもこちらは賓客故却て叱り飛され更に効なく其混雜名狀すべからぎ漸く蹂ヲ蹂れて門内に進む會場ハ階上ヲあり階下の入口亦人を以て滿さる階段の兩側には四段毎に一人の近衛兵起立し拔劍にて敬禮を示し又不時ヲ戒む楷段廊下立錐の餘地なく血球の血管内ヲ環るが

如く後者に押され前者を押し只々他働的ゐ階を昇り廊下を通り漸く會席ゐ達し僅に一脚の椅子を得て始て暫く安息する事を得たり然れ共客と續々入り來り室は乍ら充滿し中央に一條の通路ゐりしが左右の椅子い先客着坐し後より後より入り來る客と段々前者と押し詰め側方に避る能はず終にい中央ゐ立往生者の一條を作り恰も人体の脊椎の様にて甚だれかしかりし小生と早く側方にあゑし故此の苦は受けざりしも、そこは場所柄貴婦人の椅子を得ずして起立するを見ては其席を讓らざると得ず終ゐ小生も一隅ゐ起立し主人い是を如何に待遇するかと暫く室内の摸様を窺ふたいやとや來たとも〳〵其數何千人とゆふので有たろーよ後には彼方にも此方にも野郎は婦人の爲に追々椅子と奪とれゐよこ〳〵頭を擧るから何所に誰が何をして居るやらさつぱり見へない遠方ゐ奏樂の音は聞へたが何所にやつて居たか到々見出さゐかつた位而も此日い暑氣烈しく人氣と熱氣とで逆せ上り殆ど氣絶するかと思ふた位ヶ樣な所に長居は害ありと考へ速に退場せんと連を探せど石往左往で中々見出せゐいろこで村上と二人で席を出で廊下に至れば入り來る客の前より烈しく一歩進めた一脚押し返さるゝともふ接梅で實に因たぞーやかこーやら階を降り出口ゐ至らんとせしに彼方ゐ往うれよと指示する故何の氣なしに其方に至れば一條の廊下ゐして下ゐとビロド毛を一抔引詰めゐり涼風襟を洗ひ其爽快ゆふべからず段々進みしゐ終に室外ゐ出でゑして一の大廣間ゐ入る側方にゑ葡萄酒シャンパン種々の珍味佳肴ゐり既ゐ數十の賓客ゐり飲む者喰ふ者又中央には男女手を組み舞踏する者ゐり是即ち來賓の舞踏室でありしそこで大ゐ閉口したねー舞踏い勿論出來ず直ゐ退室するも氣の毒ざし仕方ゞないから小さく成て暫く人の踏るを見一抔のシャンパンを飲み一片の肉を喰ひ個々にして漸く逃げて來た宿ゐ歸たは正に十一時頃で有たいやとや實に驚いさねー特に男子いまざしもだの夫人令孃達が此上なき

樂を且榮として〻樣な混雜の〻樣な究屈な所にぞし〳〵出掛るとゝ所の風俗とゝゆふものゝ誠に呆れたね－僕ゝ文明の野蠻會とでも名付たいね－六日の總會ゝ Grand Amphitheatere de la serbanne と云所にて開會せ－も僕ゝ出席せなんだ九日ゝも同所にて第三回總會即ち開會式ゐり小生も鳥渡出席したが此日ゝ會員も最早會ゝ飽きたと見へ出席者ゝ少なかつた暫時ゐして閉會した十日午後三時ェリーゼ王宮ゝて大統領の茶會ゐり是亦殆ゝ前同樣の盛會なりしも是は園遊會ゐりし故來賓ゝ却て右に倍せしも混雜ゝ前程ゝあらざりし小生ゝ此日桂と同道巴里を辭する積であつたゝら四時頃ゝゝ既に歸宿した

博覽會の通信ゝ金澤新聞に既に委しく記載して在るから僕ゝ別に通信せぬが聞く所ゐ依れば日本も今度の博覽會より歐州他强國の列ゐ加はり物品陳列の如き皆他强國と同資格の位置ゝ占め居るゝ誠ゐ愉快だよ出品物も第一絹物は他に比類を見ない實に卓絶だ只直段の馬鹿に高ひには驚ひたが又其高いのを買者があるゐらゑらいよ漆器蒔繪彫刻品等亦日本の特產物とゆふても可ならん陶磁器はも－駄目らし－各國より出品中中々逸品が有たと思ふ日本も是にゝ余程勉强せんゝ他に奪れるね－繪画ゝ良作も澤山見受けたが何分廣漠たる西洋間の一壁ゝ掛けてながめるゝ日本坐敷で眺めるゝは違ひ誠に引立たぬ然し旨味ゝ實ゝ日本繪に限る歐州油繪はクリスト歷史画や魚鳥野菜の陳列畫ゝ一向有難くない失張り山水の如き者ゐ一番上品だ某氏の日本裸体婦人の油繪ありしが腹癪なくゆへば其体裁は兎ゐ角作の格別面白からざるゝ少々差かし－位所が一等賞金牌を得た相だが何だか審査が受取れないよ。巴里の學校や病院は規模ゝ中々大き－然し表面から見た計りでゝ眞味は分らないが兎に角格別感服は出來なかつた十日迄には大底見る者ゝ見聞く者ゝ聞き尽したから同日午後八時三十分發の滊車ゝて桂と二人で夜徹しに瑞西ゐ往き午前六時獨逸と瑞西間の國境

に着し午後六時ベルンゐ着した同國と知ての通り至る所高山大湖ゐ富み日本人は眼には格別珍らしくもないが兎に角獨乙や佛蘭西の平坦な土地ゐて而も伯林や巴里の無味平凡雜沓の處より俄然此國に來れば其愉快實ゐもふべからぎだよ、「アルペン」山脈「ユングフラウ」登山をなせーに其頂上下大凡六千尺位の所迄一歩も勞せぎ昇たよ機械學乃進歩も實ゐ驚ひたねー大學ハベルンゼチユーリヒノ二ケ所を參觀せしが休暇中にて「プロフェソール」と何れも不在なりしが留守居助手連の案内にて能く參觀した、いや一小共和市府の大學としてと何れも實ゐ見上た者だ内部の構造運搬点火暖室清潔法等の裝置器械器具の備付等稍々欠くる所なき樣ゐとしバーゼルの病院も見たが此屋舍は隨分古き建物の由にて成程外見ハ余りよろしからざるも内部は悉く塗ヱ換へ大へん清潔ゐして稍々完全なる手術場もあり病院としてハ間然する所なき樣ゐ見受けたり伊太利にてはマイランド、ウエチヂヒ、ゲヌアの三ケ所に至り各所の病院を參觀せしが是ハ到底參考とすべき者更になしさ只マイランドの悉く蠟石より成る「ドームキルヘ」ゲヌアーの墓所、ウエチヂヒの「カナルール」を道路とする市中の景況等ハ實に珍らしゥつた同國と甚方に近寄る故氣候稍日本ゐ類し稻麥竹西瓜鳳仙花等と西洋で始て見て余程なつかしかつたよ其代り日本の如く蚊や蠅が隨分居されも西洋で始てで大ゐ閉口しさ夫から又バーゼルを經て獨乙に入りストラースブルグ、ハイデルベルグ、バーデンバーデン、ライプチヒ等と見て八月卅日漸く伯林ゐ歸た獨乙に入れば何れも兄たりがたく弟さヱがたしだが規摸の大小敎授の爲人と素より所に依り大差あり眼科にてハいらい人は幾等もあるがライプチヒと擔任敎授ザットレルの爲人も良い樣子校舍其他の設備も整頓し患者も中々多ひし十一月より該地へ轉ぎる積りだ云々

又左の書信は高安氏よりその留守宅へ送られたるものにて中よハ前通信と重複せる廉なきにあ

ゟざれども仲〻ゟ面白き節の多けれバ乞ゐ得て茲ゟ之を掲ぐることゝはゟしぬ。

前略余は去る三十一日旅行より歸宅後目下尙休暇中故且旅行にて少々疲勞の氣味もゟるし故暫く保養の爲め病院にも行ゟゑ、當地に見殘したる諸々の博物館の如き者、衞生に關する場所名所等殆ど日々見物時々は又友人と玉突や小遠足抔致居夫等のためか身体ハ非常ゟ壯健に覺へ一點の不快なる所も感じ申さず候間御安心被下度佛國巴里行ゟ就き委細ハ歸朝の產話として先づ重複もゟろ一が是迄の旅行日記を其儘通信しよ一

偖て巴里に世界萬國博覽會ゟり其好時機を利用して萬國醫會を開くともふことは既に去年吾々が本國出發の頃より薄々知て居さ、爰に着した時は最早確で有た、夫故昨年十一月巴里萬國醫會列席並に其序に英國倫頓巡遊の願書を文部省へ出した、本年六月末巴里行ゑ許可にゟり英國行は許されなかつさ、旅費手當は二百圓ゟ打切りてゟつた、そこで七月三十日佐賀の池田陽一、福岡の熊谷元旦、長崎の村上安藏、同宿の熊本開業醫行德健男、他に軍醫一人都合六人連にて午後十一時五分伯林ゑ出發し翌三十一日午後六時二十分巴里ゟ着す、桂ゑ當時瑞西國「ベルン」ゑゆふ所に轉學して居さが、宮內省の命ゟ依りて余よゑ三日前巴里に行き豫て約束の通り宿ゑ心配し且停車場ゟ出迎へ滯りゟく着し本人の下宿に同宿した毎日朝から晩まで博覽會見物ゑ醫會出席ゑに寸暇もなゝつた、醫會ハ八月二日より九日迄一週間、二日午後三時より博覽會の式場ゟて佛國大統領出席總會、會員數六千百人其內婦人數百人、式場は丸家ゟて鐵骨石造、天床は皆硝子、壁ゟは美麗ゟる花鳥馬人物を画き其美麗壯嚴ゟる實ゟ筆記し難し、上段ゟは大統領を初め會長其他各國政府派遣委員着席一段低き平面には數千の會員着席し、側方の一段高き所に數百の音樂隊ゟり所々に近衞の護衞兵不測を警戒ゑ、定刻ゟ至り會長開會の辞を述ふ拍手百雷の如し、次で大統領以下順

次に會員の祝辭あり、其間終始奏樂あり其盛大なりしこと實に名狀し難し、日本人にて實美軍醫總監の告辭あり、五時に至るも中々閉會せざりし故實美氏等と共に四五人連會場を辭し博覽會を見物す、眼科分科學會と「ホテルヂユー」とゆふ市立病院内にあり會員二百五十人餘毎日總會日の外前九時より午後五時頃迄開會す、六日には「ユリゼ」ともふ宮殿にて會長の案内なる宴會あり出席者萬人以上あり、門内門外立錐の地なく階段階下至る所賓客を以て滿され階段の兩側に〻近衛兵拔劍にて不測を備るも甚混雜〻單に群集なるが上に且つ皆賓客なるが故に更に制する能〻ず、必死必生の体にて會場に至れば奏樂もあり、舞踏もありしが室内の暖氣もせん方なく、暫時にして別席に至り、一杯の「シャンパン」酒と一片の肉と食し漸く難門を通過し逃げ歸る、斯く會場不適合の多人數を招待し門前に人及馬車を輻輳せしむるは、但し佛國の大家にして名譽とするの風習なりと聞く、豫て斯くあらんと知りしなば余は出席せざりしに是を知りつゝ行く人の氣が實に解し難し、九日にも「アレフィテアテル」とゆふ宮殿にて閉會式あり是〻奏樂の間に會員代る〳〵祝辭を述べ大略開會式と等し、十日午後三時より大統領の案内にて「ソルボン」宮殿に立食宴會あり是特に大統領の案内故出席する者前者に倍す然し此日は園内に集りし故前程の混雜はなかりしも數千坪の廣き芝生も殆ど立脚の地なき程に充滿し門前にも無論數千馬車にて一時は全く普通の往來人を拒絶せり吾々も居ること一時間計りにて退場せ然し世界第一流の大都會丈あり斯く多人數を兎角入れる程の席場あるに〻實に一驚を喫せり、博覽會々場ともふ迄もなく其廣大美麗なる實に筆記し難し廣さは金澤公園の十倍以上、建物〻皆二階三階床下地中にも諸種の器械を据へ付發動力所又〻物置水産物室あり、十日間毎日三時間乃至五六時間見物せるも殆ど再度見し者なし、日本出品中最も外人の目を惹き特に貴婦人の涎と流せ

しは絹織物室なり、漆器之に次ぎ、陶器、彫刻物は格別の好評なし画は最も不評にして吾々如何に負目より見るも實に恥かしき程なりし、日本酒店茶店い可なるの繁昌なり、茶店には日本服及袴と着用せしめたる佛國婦人の給仕あり然し唐もろこしの束髪にと日本服は迚も似付かぢ、酒店あは東京美人の給仕あり奇と好む佛國人の事とて是を見物旁々男女の別なく澤山出掛る模様なりし、爰ゑて寺井の綿野氏に偶然邂逅し久々にて金澤の噂談となせり、日本藝妓の見せ者にい實に慨歎あ堪へず尤も格別醜体と顯はさぢ純粋の日本風にて十二疊敷位の疊を敷きさる日本坐敷内に居坐し大屈そーあ酒し居りしい寧ろ可憐の情に堪へず只々見せ物となりしを歎ず、其美其風更ゑ恥る所はあらざるし、高さ千尺の鐵造塔と一驚を喫せり其圖と曾て送りし或る端書あるゑし、醫會開會の當日歸途實美、野田、其他四五人あて登る頂上迄登るあは五「フラン」（貳圓）の登上券を要せり、之を三階に區別し

一階迄一「フラン」、二階三「フラン」三階登り五「フラン」なり元より階段あれと多くと昇降器にて登る、各階に「ビール」屋酩酒屋種々の賣店あり、千尺の頂上に達すれば六疊敷位の部屋あり、大なる望遠鏡を備ふ、爰よる眼下を見下せば輻輳する人車恰も蟻の群集そるに異ならず、博覽會場い勿論巴里市及其近郡と眼下に集望す、只々日本の見へざりしは實ゑ遺憾なりし、頂上一室の側に便所あり、此時丁度尿意を催し此所に放尿す千尺以上の便所あて放尿すると生涯中決して恐く再びするぢいざらん、市中の賑と又格別往來到る處人馬を以て織るが如く一瞬時も油斷する克はぢ特に街路を横切る時は其危險もふぢうらず、一頭立二頭立の馬車、二階付の馬車、鐵道馬車、乘合馬車、電氣鐵道車、自轉車、石油發動車、或る市街ゑい蒸氣車もあり、然し蒸氣車と多く屋上又は地下に通ず、交通の便なることと實に驚あ堪へぢ、或る日市内下水工事を見る往來の地面より下ると三階段あし地下

空地あり瀛車の停車場なり、下水のトンチル高さ一丈巾八尺位天井側壁直徑三四尺の大鐵管四本其他數本の小鐵管あり鐵道レールの下にハ溝渠あり市内家屋より流下する糞尿の水道あり、側壁處々に支流あり、雨水下水の流下道なり、鐵管ハ飲料水がを管等なり、瀛車（腰掛のみにて蓋のおきもの）ゐて行くこと十五分にして乘換場に達す此所にも長さ十五尺巾四尺位の川船あり、一艘に大凡そ三十人を乘せ船頭二人船の両側と徒渉して是を導く、此の水も皆糞尿ゐるも既ゐ洗水ゐて稀釋せらるゝ故只雨水の如く混濁するのみゐて糞塊紙片等を見ず又少しも臭氣を發せず蓋し各家便所ゐは水管あり便後管の「チヂ」を廻せば一定量の水射出して直ゐ便と洗流し一點の汚物を止めず、市内便所は常に水流れ恰も河中ゐ放尿するゲ如き仕掛故下水幹管に達する時は充分薄くなり又化學的の作用にて他物に變すればなり、船にて「トンチル」を下ること尚二十分計りにしてセーヌとゆふ河の或る一部に出づ是れ或る宮殿の側ゐり實に此工事の壯大なる到底日本人の思想にて想像の及バざる所なりき、市街家屋の一部は當伯林ゐ優れる所もあるが概して云へば不行屆の所多く道路狹隘隨分馬糞にて不潔なる所あり伯林より劣れるが如し、病院抔隨分宏大なれど不整頓のゲ所少なからす學問上に宛てめると遙か獨乙に劣れるが如し、物價ハ博覽會中の事とて常さへ歐羅巴中尤も高き所の一府なるに其上常より三四割方騰貴し居り吾々の下宿が中の下等ゐて十二疊位の粗末な部屋で二人詰一日賄付四圓八十錢なりし二百圓の手當にてハ十一日間の滯在旅費に正に不足を感ぜり其故一日も早く切り上げ當地を逃げ出す積りなりしも大統領の宴會ゐ列するため十日迄滯在せり、是ゐり豫て切望の瑞西、伊太利を巡遊せんと桂氏と相談の上同行する事に決し同日午後の宴會の景況を見六時半の瀛車ゐて瑞西國ゐ向け出發す翌日夕方同國ベルンともふ所ゐ着す此地も桂氏一時留學の地ゐり、物價廉なり人氣亦

大ゐ善し、此處ゐ暫く骨休めとして腰を落付け其間少々見物す、當國と到る處歐洲有名の雅地あり特に湖水に富む風景實ゐ優雅なり、アルペン山脉ユングフラウ（譯それば乙女山）登山鐵道は、よも人工ゑていあらざりしと思ふ位傾斜の度四分の一（通常鐵道匂配の最高度い四十分一なり）にて皆齒車仕掛なり、瀛鑵車と前車小ゐして後車大ゐるが故平地ゑて前部地面に突入する樣に見ゆるも登山する時い丁度水平の位置ゐて進行そ、登る時と左程もないが下る時は一の谷の倒落でも食いんかと間々手に汗を握ること屢々ゐりし、人爲の力も亦實ゐ進んだ者ゐり、當國諸山此山上鐵道ゐり暑中遊客の便に供ず、八月十四日乙女登山と企て午前八時桂氏と共ゑベルンを發し十時頃インテルラーケンとも ふ所に達す山上鐵道瀛車の發車時開迄には尙ほ一時間餘の猶豫ありしを以て近所の小山アーベンドベルグに登らんことを企て直ゐ進む、然し行けども登れ共頂上に達せぞ問はんと欲そるも人影を見ず全身汗に浸され足勞れ氣息喘々たり時計と見れと發車時間ゑ僅に二十五分を剩す周章狼狽道の善惡を選ばす殆ど一直線に急下し麓ゐ至り馬車を驅り發車場に至れば無慚憐れ煙々たる黑雲を殘し後とも見ぞして瀛車と既ゐ發走せり暫くは桂氏と顏を見合せ言句を發する克いざりしも幸ゐ引返の旅行なりし故手荷物と更にゐりし故落膽脫力徒步にて賑かなる所に引返し緩々晝飯を喫し十二時二十分發發の次便を待つ、時至り便上して乙女山ゐ至る途中ラウテルブルンヲンとゆふ所より端書を發せり着せしや否や、乙女山に達せしい四時五十分ゐりし、此所と絕頂にあらざるも海面を拔くこと三千二百「メートル」殆ど吾一萬尺なり、斯く高き所迄一步も步行そることとゐく登ることを得るとゆふは何と驚くものゐいあらざるや、右の失策ゑて遂ゑ此日と歸宅する能と ぞ到々途中インテルラーケシに一泊し翌日午前十時半ベルンに歸着せり、十八日午前十一時十分ベルンを辭し二時半ルチエ

ルンとゆふ所に着す此地は有名なるフィールワルドステッテルゼーとゆふ湖水の一方に接し景色亦頗る佳かり湖水を瀛船にて渡る又前なるコリズリーギークルムとゆふ山の山登りと企つ、瀛船は定時其麓に着し山鉄にて亦是に登る、此日の午後より雨氣を催し頂上に達する頃と大陽稍西に入らんとし雲霧濃厚にして咫尺を辨ぜず更に風景を望むに由なく失望落膽極りなきも如何とも詮方なく少しく山上を散歩し寒氣甚しかりしと以て一の「ホテル」に至り端書を認め酒杯飲み既に終列車の時刻ならんを察し濃霧の中を潜り發車場に至れば瀛車をなく亦多くの人影を見る途中三人の洋人に逢ふ、洋人問て曰く「ホテル」に明間なきや吾答て曰く余は知らず行て問ふべしと余の今より下山せんとそ其有無を知るの要なきと以て之と問とざりしと、洋人曰く夫の氣の毒なり瀛車と既に發せり行くと止めよと、余の大に急ぎ居りしを以て能く是を信せず拱挨もそこ〳〵に停車場に至れば果まて信なりし、

（通信）

相憎其時より少しく降雨を初め日將に暮んとす停車場に二人の貴婦人停み居り母子と見受く、余等迷惑の樣子を見君等も瀛車に乘後れ賜ひしや妾等も同樣にて大に迷惑せり加ふるに降雨を始む天何ぞ吾等を憐まざる兎に角此所に立明を譯にも參らず希くも共に下山し吾等は次の驛にて投宿せんと依て其意に任せ下山の途に就く、雨はしよぼ〳〵と霧深く道路嶮惡尤も本道と知らず鐵道線内を下る、彼等足弱く到抵余等と同行する能はざるを知り吾等徐行して次の停車場に投宿する故遠慮なく進行せられんことを希望すとゆへに、余等は彼等の同行を大に迷惑し居れるが故に然らば許せとゆひ放ち一さんに驅下り第三の停車場迄（丁度中央）至る時既に七時半頃にて大陽全く沒す、頂上の「ホテル」に投宿してもよかりしが雨の降りて居る故濕れるを平氣、汽車に乘て上りし故疲れなし面白半分勢に乘じ驅け下りしに登りし時は左程にも思はざりしの徒歩して見れば其嶮嶇なること實に甚しく、第三

の停車場に近付し頃は膝の力全く脱け更に坂上ゐ立止る能ゑざるに至り辛ふじて第三停車場カルトバードともふ所の或る「ホテル」よ止を得す投宿す（端書を發す）是が二度の失策故山登りは爾來せぬことにせり翌日早朝同所を發し十一時三十五分ルチエルンに歸着す此所の「ホテル」には名々の荷物をのみ殘し置きしも貳圓宛ふんだくられ荷物の宿賃二圓とゑ隨分馬鹿氣た話しなり三時十五分同所を發してツーチルゼーとゆふ湖水に接し「タルザントゼットハルドバーン」ともふ世界に有名なる鐵道に乘り伊太利に向ふ名にし負ふアルペン山脈と突拔し鉄道とて湖水よ添ふ無數の山麓を縫ひ行く故「トンチル」と湖水と交互見物し其景も亦美ゐるゞ「トンチル」の多數なると間々其長さとよ驚けり其一の如きは丁度二十三分を要せり夜十時五十分伊太利都府の一なるマイランドとゆふ所に着す、此所に有名なるは「カトリック」教の一寺院ゐゑ高さ十五間圍り三かゝゑもある臘石の多角柱三百二十本よ

りゐり土臺天床ゝ云ふ迄もなく屋根板床板迄悉く臘石にて又其彫刻の精工なること實に言語に絶す、三百年前當國の全盛ゑ實に驚くの他なし、當國は又墓地墓碑を善する風習あり往々我產と投じて墓碑を建設すと、墓地は一ヶ所に集合す、入口は壯大なる岩石臘石錬瓦造りの大本堂あり周圍ゝ同材を以て建てられたる羅漢堂の如き者ゐり悉く長さ六尺高さ三尺奥行三尺位の戸棚形に仕切り死骸と葬る所ろとそ、其最も高き棚ゑ十尺計も上にあり、是皆貧民の者ゐり財產家ゑ其分ゐ應し圍内の墓地に各自之を設け大なるは日本の土藏位ゐゑ而して先祖代々の墓碑とゐす善盡し美盡し一碑數萬圓の價値ある者屹立す特ゐ美なるゑ臘石の彫刻碑なゑ或は肖像或ゝ女神中には夫の墓前に生存の寡婦墓參して慘然として悲むの像あり、正に生けるが如き者少なからず、市内も稍美なるも格別の事なし、翌十九日は日曜日なりしも病院右の墓地寺院抔見物し夜十一時二十五分同所と發し伊太利第二の都港

ウェチヂヒに向ふ、夜半立ちしは宿賃儉約の爲なり、二十日午前四時半同所に着せしも漸く夜の明んとする頃なりし故停車場に荷物と預け當地案内記を當に茶店等の開くる迄彼地此地ぶらつけり此地は世界無比の奇地にして往來なく車類おく町なく町は水道にして車に代ゆるに「ゴンデル」とゆふ小船を以てし大道と大水道小路と小水道なり家と水中に立ち表と水道に面し多少陸小路あるも皆裏路なり、五時頃「ゴンデル」に乘り大水道を下り宮殿寺院技藝博物館工業學校等を參觀せり然し船賃高く言語通せず少々陸小路を徒歩せしに汚物累々鼻を突き蠅虫多く嘔氣を催ず正道に出でんとするも橋おき水灣に出で越ゆる克はず立戻ること數回にして漸く本道に出で停車場に達す、此所にても旅籠賃儉約の爲め旅宿を取らず終日ぶらつき夜十一時二十分再びマイランドに向け出發す、十一日午前六時二十分「マイランドを通過し十一時二十分「ゲヌァー」に到着ず當地も亦都港にして日本より來る獨乙

船の如き皆當港に寄港し大に繁華の港あり市街港灣の模樣大に神戸に類似ず、市街清潔高燥にして甚ぞ氣持ち良しウェチーヂヒの比にあらず墓所亦マイランドよりも美あり既に二夜投宿せず稍々疲勞を感ぜし故今夜は緩々旅宿に投じ安眠をなせり、廿二日午前八時十五分同所を發し歸途に就く、概して伊太利と舊跡に富み羅馬の古代繁昌を殘すと雖とも以後の進歩は停滯し學問的今日の進歩に對しては到底日本にも及ばざる如く病院の如き只々規模の大なるのみ更に學問上の見るべき者なのりき翌二十三日午前六時半瑞西國チューリヒといふ所に着し或る下宿屋に投宿す此所にて京都の淺山氏に邂逅せり八時二十五分こゝを發しイハウゼンとゆふ所に至ず有名なるライン川の瀑布を見る、さすがに西洋あり實に寒村僻地なるも日本銀行の如き旅店數軒あり瀑布の直下迄鉄材にて道路を作ず女子供も樂に近接して見るを得せしむ實に痒きに手の届く仕掛にて避暑客と各國より引き付る者なり、

此日恰も例の鼻風にて鼻汁頻りに出で五六枚の「ハンカチ」布を用意携帶せしも悉くしぼる程ゑ滲潤加ふるに雨天ゐて寒冒者にゐ甚だ妙ならざる天氣ゐりしゐも係らず敢て遊散し雨と瀑布より飛散する雲霧をも事ともせず瀑布を一週し即ち上下左右より見物し一時二十分チユーリヒゐ歸る日本に於てゑこんな瀑布は屁でもゐく謂ゑゞ日光の霧降の瀧の巾廣き者の樣な者なるも全体歐洲ゐ山川に乏しき故特に人の賞賛する所ゐり此所にて桂氏に別れ翌二十五日午前七時二十五分同所を發し獨身歸途を急ぐ九時二十三分瑞西と獨乙の境なるバーゼルとゆふ「ステーション」ゑて乘換をなさんと下車せしに偶然福岡の熊谷氏に邂逅せしも同氏ゐ一汽車先に發他の方面に至りし故十時八分矢張單獨にて同所と發しストラースブルグと云所ゐ向ふ言語の通せざる伊太利より瑞西に入りし時ゐ實に日本に歸りし心持せり十二時十二分ストラースブルグ着此地ゐゑ既ゐ日本人三名居り其業内ゐて大學校を始め諸所見物し當日此所に一泊し翌廿六日九時三十分同所を出發しバーデンと云ふ温泉場に至りて「フリードリヒバード」と云ふ湯治場を參觀せしに家屋の大さは第四高等學校練瓦作りの分より三倍位なるも四階建ゐて其構造の堅固美麗ゐることと實ゐ目と驚かせり浴室千號以上に達す各階に勿論浴場ゐり蒸氣浴ゐり遊泳浴ゐり器具浴水清潔ゐして一の欠點を見出さず市内亦夥多の「ホテル」ゐり遊歩場ゐり賣店ゐり幾日此所ゑ滯在するも倦むことを知らざるが如し、四時四十五分同所を發し六時二十分バイデルベルグゐ着し東京醫科大學教授吳秀三氏方ゑ同宿す此ゐ二日滯在し大學を始め市内舊城等を見物す、當地稍天然の風景に富み加ふるに有名なる古城ゐり城内の或る一隅に千二百石入の大葡萄酒樽ゐり以て往時の盛況を知るに足る、二十八日前七時三十分同所出發フランクフルト、アム、マインに至る此地と商業地にして大學なきもコホ氏肺病藥の元祖とも云ふべきエールリヒ博士此血精藥院ゐり

又公園等と參觀し一時三十五分同所と發し九時四十分ライプチヒに着す爰にも一二の友人あり其案内にて大學を始め市内大署を見物と此地にはザットレルと云ふ眼科の大家あり事に依り此地に轉學の志ありし故能く參觀せり案外整頓するが故に十一月初旬此地に轉學の事に署ぼ決心せり、二十九日桂氏も當地に來り（豫定通り）翌三十日午後六時十五分同所を發し九時桂氏と共に伯林當宿に歸着す、斯の如き長旅行は日本より當地へ航海の外生れて初てありしも（三十二日間）至る所目先變り珍らしき故あくこともなく又幸に途中格別の身に異變もなく無事に佛國瑞西伊國獨國の西洋大國を横行し實に愉快なりし云々

●横山軫氏の通信　目下英國倫動「ミディカル、コレーヂ」に在學の同氏より東京醫科大學助手本會賛助會員松原三郎氏に寄せられたる書信を得たれば左に其全文を掲ぐ

拜啓其後多忙に取紛れ久敷無音に打過き候段御海宥被下度候出立の節と貴君を初め在京同窓諸氏より色々御厚意に預り辱く奉多謝候偖て過る三月十六日上野墨堤の櫻未だ春色を催さぜ只だ白老の富士と龜井戸の殘花とに名殘と留め終に鄉土と離れて遠く相分れ申候全二十五日香港に着し直ちに上陸して東洋館てふ日本人の旅館に參り久し振にて日本食を味ひ夫より所々見物に出掛け申候蓋し香港の市街たるや署ぼ文明的に構成せられ加ふるに眺望絶佳風景亦美麗にして其の公園にと世界各國の植物と並べ仰けば爛熳たる艶花霞の如く俯せば馥郁たる奇草錦の如く加之其間に處する英人の生活に一種優美の光景を放ち此等の光景は鋭く吾人の眼底と刺戟し心腸に於て反射的に一種言ふ可からざる疼痛と感せしめ申候故小生に之より言を重ねて此疼痛を諸君否吾同胞の諸士に可訴候。熟々今極東の風雲を窺はんに我等同胞が未來の隆盛を期せんとするには戰爭も必要に候へん又科學の進歩も固より必要には候へ共最も必要あるものは國民自

らが進歩したる生活を執るとゝありと存候試ゝ諸君の一度香港ゝ遊び玉はゞ稍々文明的光景が諸君の眼底を刺戟せると共に諸君自ら此點と發見せらるゝのみならず尚ほ黄白人種の關係及日本國民が將來如何なる方針を執らざるべからざるや自然ゝ氷解し得らるべくと存候小生ゝ諸君即ち本邦國民中心の代表者たる諸君に向ひて切に祈ふんと欲する所と一度此地ゝ遊び少なき金錢と短き時間とを以て此等の重要なる見識を得られ度き事に不外候

四月四日シンガポールに到着仕候同地と赤道直下のこと故單衣ゝて發汗だら々々として正月の雜煮を祝ふ可き熱候に御座候然れども住民ゝ比較的に清潔を貴び亦上下水道の完備せるにより流行的疾患は誠に少くペストの猛威も尚ほ侵すと能とさる狀況に御座候此地は殆んと世界人種の展覽場にして數多の人種互に混雜し本邦人の居住する者三四百人に及べども其の多くは所謂月眉柳腰的の非正業者にして其甚しきと驚くの外無之候他の正業者も相當の生活と營み異鄉ながら住めゞ都にて中々面白しと何れも中居候長崎の得業士中野某氏當地に開業し頗る盛大に見受けられ申候序ながら諸君に一言注意致置度候英國政府と其本國を除くの外總ての殖民地に於てゝ日本國の免狀にて醫術開業を許可するとと相成居候により諸君にして若し遠征の雄志と豪宕の企圖とだゝ有之候ゝゞ何れの半球たるを問ゝそ地球到る處諸君の偉慮を歡迎すべく候諸君ゝ既ゝ高等の教育を受け又敏活の手腕を有せゝる可く候故猫額大の小天地に互ゝ爭ふが如き愚に陷るとなく廣く眼光を地球の表面に注ぎ吾が帝國の膨張を企圖せゝるゝと共ゝ各々天凜の才智を全ふせられんと切望の至りに御座候ピナンとシンガポールに比すれば地位稍々劣等にして熱氣亦甚だしく候同地にゝ一大船と海中に遊病院を構成し頗る奇觀に候

尚ほ印度洋を航し四月二十二日コロンボーに着仕候此地と所謂天竺と稱し釋迦以來の舊蹟あり港より七十五里斗りの山與ゝ位し蒼古の

巨刹今尙ほ三千年前代の文物を表示し何となく床しく感ぜられ申候次て紅海及蘇西運河を通過し右に亞羅比亞を眺め左及埃と望み何れも古代文明の末路を悲しむが如き暗雲たなびくポートセットゝ至りて兩沿岸の亡國民を見に及び悲哀胸を塞ぎ申候地中海に入れば忽ち冷氣を覺ゆコロシカ及シヽリーの諸島尙ほ殘雪と戴きて奈翁の跡を照すが如く感じ候

五月二日佛國マルセール港ゝ到着仕候同港ゝ歐州大陸に入るの關門ゝして壯嚴宏大なる良港ゝ御座候從ふて汽車交通の便著しく開け里昂迄六時間、巴里迄十四時間、伯林、漢堡發何れも二十五時間、維世納迄二晝夜斗りにして到着可致候此地ゝて横濱出發以來同房内ゝ浮沈したる渡邊、大西、澤田の三醫學士と袂を分ち尙松石陸軍少佐等の一行と相離れ船中俄かに淋寂を感じ眞に異域流涙の感を覺ゆ申候船の同港内に碇泊すると三日間に相及び候により小生は遞信省參事官石渡君と共ゝ諸所遊覽ゝ出掛け申候佛國の氣候い恰も吾關東ゝ類似し頗る温暖に御座候其人民ゝ丈け甚だしくゝ高からず眼色ゝ日本人ゝ類し其性甚だ愛嬌に富み道を尋ぬるも亦た物を購ふゝも頗る丁寧なりと感せられ申候仝地の農商務省留學生高柳氏を訪ひしも仝氏は當時伊太利へ旅行中ゝて不在なりしも宿婦誠ゝ親切にして何となく樂しき感を起し申候此等の有樣ゝ到底東京の下宿屋にて見得可からざるとゝ石渡君と共に感心仕候佛國ゝい共和の女神なる肖像ゝ大低大なる辻道にたて寺院公會堂にもゝを祭り居候亦ゝ諸君も御承知の如く馬力の原位は仝地の馬に基きしものにして肥滿せる馬の二三十頭を連繫して合力勞動せしむる有樣は自然に幾馬力てふ計算ゝ考慮せしめざるもの歟ゝ存ぜられ申候人民い一般に酒類ゝ珈琲ゝを嗜み到る處華麗なる仝店を築き軒頭の路傍に椅うゝ並べ通行人を眺めながら杯ゝ傾けつゝある有樣何ゝなく遊閑に見受けられ申候

五月五日馬港を發し八日ジブラルタルの要塞を通過し亞弗利加州ゝ左後方ゝ送り大西洋を

横ぎり五月十二日朝最も壯麗なるテームス河を逆り午後チレバリドックに着し翌月曜日倫動に入り申候

倫動府の起源い詳からされとも恐らくは紀元前久しき時代より昔時の種族によりて商業的ゑ建てられたるものにして降て第四世紀の中頃に至り「サクソン」人種が侵入混住せしより漸く盛大を致し爾來幾多の變遷ゑ遭遇仕候ひしも其の發達進歩の軌道を脱せす今や世界の歴史ゑ比と見ざる大都會と相成り候倫動市街いテームス河によりて南北ゑ分斷せられ其の北際は高等街にして南部は劣等街に御座候道路家屋の構造ゑ新紐育の如くに高宏ならず亦伯林の如くゐ新麗ゐふざれども盤石を疊みて堅固なると到底他都に見得べからぎとのこゑに及聞申候道路ゑ三種に分れ甲い全くセメントゐて固め恰かも鏡面の如くに候乙は木道にして幅厚三寸長サ七寸許りなる長方形の堅木の切片を縦横維ゑ並べ其の下地い漆泥にて固め上面はコロタンを塗れるものゐ候丙ゑ石道ゐして全上の石片ゐて造れるものに候三種共ゐ車道にして人道い其の両側に位し何れも全く岩石にて構造せられ候爲めゑ街上ゐ於ける一滴の水たりとも地下ゑ竇入する憂無之候右三種中甲は最も宜敷御座候へ共非常ゑ經費と要し乙ゑ最も實用に適する由ゑ候丙ゑ甚だ堅固なれども馬及車ゑ損すること多しとのこと に御座候△辻便所い壯麗ゑして且つ清潔なること萬國比なき由にて其の全部ゑ磁器質と水硝子的物質とにて地下に造られ大便所ゑ一「ペンニー」（日本の四錢）を投せざれば開口せざる裝置に候へ共小便所は錢を要せず候小便所ゑゑ或る自働裝置により二三分時毎ゐ水流出して洗滌するを或る田舍漢誤りて之を呑みたる事實ありたる由に候其の一側には掃除人の住室ゐゑ手及顔等を洗ふ可き室も有之全く一箇の住家の如き有樣に御座候本邦の首府たる東京にも只だ一ヶ所たりとも斯の如き完全なる便所のあらんとを相待ち申候此の便所の命名に付き諸君に御注意申上べきと有之候元

來便所ある名稱其の實意を隱蔽せるが如く歐洲にても便所の入口にハ「ゼントルメン」或は「レヱディース」と認め有之候諸君若し歐洲に來り候はゞ其船内と瀛車内と又さ何れの場所たるを問ゑず小生が此の注意の徒勞ゐあらざることを悟らる可く候△交通運輸器關ゑ屋上にハ鐵道あり地下には尙ほ之あり上下水道、電線、瓦斯管等の地下を穿通するもの數ふ可かゝず若し今或る市街を横斷して其斷面を檢せば恰かも人体の如く食管もあらん氣管もあらん亦さ日々世界の出來事ゑ智覺傳搬する神經もあり又さ自ら營養を供給する血管も備ハりて實に驚く可き活像ゐ候△人民の數ゑ五百七十万なれども其寄合人をも合すれは一千万と可云候故二十五英里四方の市街が人と馬車とを以て充塡せられ實に寸毫の餘地も無之候△英國ゑ東經一、四五分西經一〇、三〇分北緯四九、五八分－五八、四〇分の間に位し倫動ハ其の最も東南端ゐして恰かも吾が千島の占守島と同位置ゐあるも氣候ハ温暖にして夏期ゑ

（通信）

根室邊に類し冬期ハ東京に近し寒くして雪少なし又古來天變地異少なくして都民の多くゑ地震の如何なるものなる歟を解せず又一生涯ゑ一回の火災に遇へゑ非常の不幸と感じ東京の火災を話し候とも多くの部民ゑ到底了解すること能はざるものゝ如くに候△倫動部外の風景は稍々吾北海道に類し杖を曳きて此邊に遊ぶ毎ゑ自ら故國の空を思ひ出され申候蓋し當國は吾日本國とハ全く地球の反對極に位し極東と極西との差實に一万一千里餘ゐ及び時間も吾が神戸とハ全く九時間の差有之爲めに倫動の正午時ゑ神戸の夜の九時に相當可仕候然れとも照らゑ日月ハ同しくして空ゐかゝれる星ハ變らゑ只だ奇と呼び妙と云ふの外無之候されば英語ゐハ奇妙 Stranger と書きて外國人てふ意味も眞に了解せられ申候回顧せば心を猛けき益武夫が僅かゐ越後より能登まで來りて早や家鄕の遠征を思ふなゑ女々しく呻吟せる謙信として今此地にあらしめゐば果して如何の感をや起すらん若し夫れ數世紀の後

月の世、星の花に至るとを得ば今日小生が了解したる奇妙の意義が尙ほ奇妙に感せられ候はん△英人並に異種人の混血＝今日英人と稱そる者は全く相異なれる兩人種の混交により て生したるものに御座候即ち甲ハ往古種族にして乙はサクソン種族に候就中單純なる甲種族は眼は茶色にして髮鬚と黑く殆んど東洋人と同種なる如く候へ共純粹なる乙種族は眼と綠にして髮ハ紅く全く別種のものに御座候小生は未だ詳細に血液を驗査せざるも恐らくは亦差異あるふん歟と存居候然れとも當時は此の極端の人種を見難く主として混血致し居候故只だ其人々が主として何れの種族に近似そるやと注意する迄に御座候故甚だ遠く相異れる夫婦間に於て多くの子女を擧げ候時ハ自然に四種族に分るゝ有樣に候即ち甲は甲種族に乙ハ乙種族に近似し丙は丙種の中間と形造り丁は甲にもあらさ乙にもあらず亦丙にもあらさして組織其の結締と誤り一種の病弱者若くは不具者とおるものゝ如くに候抑も異人種互に混血するの良否ハ政治上の關係と措て問ひ不申候とも体格的現象に就て之を研究致し置くべきと我等同屬の未來に向ては甚だ重要なるとと被存候故英國及印度に於ける小生の研究を概言致し諸君の注意を起し度候今或る大國に於て全く異りたる二種の人種が普く混血せんとは一寸相考へ候はゞ甚だ困難なる大事業にして百年二百年を經過するとも到底行と れ難き樣に御座候へ共他の方面より考慮致し候はゞ誠に意外の速力にて普く擴播するを得べたものに候試みに動物に就たて諸君の周邊を見られ候ハゝ相分り可申候彼の近々三十年以前に於て純粹なる帝國種族たりし幾百万の馬と犬ハ今日果して如何なる狀況に御座候哉或る土地にてと殆んと純粹なる種族を見ること能はさるに至る申候人類の混血ハ勿論動物に比そべくもあらず候へ共常英國と初めとし印度人種の變遷となり世界各國の事實により日々意外の速力よて進行しつゝあること敢て小生の言論と俟たずとも明なる次第に候思ふ

に彼の内地雜居と共に此の事實も吾種族に波及せるを覺悟せざる可からざることと存候故に今日全く混血せる英人は前陳四種の狀觀を呈し之を呈し之を來せの度い其の両親の血液差異に正比例するものゝ如くに候故夫婦が甚だしく遠く相隔りたる血液を有するに候はゞ從ふて其子女も右の如き四種に分るゝこと顯著に御座候小生固より淺學短才なるのみならず尙ほ研究日淺き故斷言致し兼候へ共當英國に於ける先天的虛弱者及不具者の多數は結核に因るにあらず亦特種の疾患に基づくにもあらず全く前述の關係に源づくものゝ如くに候即ち前述の甲乙丙の何れにも屬せずして丁とおり單純血種族間に於て見ること能ざる症に有之候諸君も御存知の如く今紅彩と水晶体とが父屬よりして構成せられ網膜が全く母屬よりして構成され候ゑゞ自然に一種の眼病を可起候此等の關係は眼に於けるよりも寧ろ他の部分に發せると多く其變化も頗る興味深きものを見受け申候小生の當地に於ける實驗も遠からず吾が日本國に於ても諸君が御實見せらるゝに至らん歟と存候小生は其の好例を擧けんと欲し近頃倫動の或る甚だ異なりたる血色と有する夫婦間に生せし一家族を研究し非常に興味津々たるとと相感じ申候

甲父　家系サクソンに近く　髮遺傳病なし　体格強健　眼紅緑

長男　身体い多分乙屬に類するも眼膜い甲乙何れにも類せず亦た丙たらす組織全く其結締を錯誤し一種奇怪なる先天性眼膜異常と呈し視力障碍あり智力尋常身長父よりも大にして強健就職す

長女　身体全く乙屬に似体質智力共に母体に劣る

二男　丙質にして身長畧ぼ父に等しく頗る健康智力尋常

二女　丙質にして体格稍甲乙に劣る然れとも頗る強壯智能尋常

三女　身体の構造畧ぼ甲屬に類するも眼髮は母屬に近し然れとも丙質よあ

丙　中間質

乙母　家系往古種族に近し　髮遺傳病　茶眼黑

なし体格中等にして強健

丁　組織其結締を誤れるもの

四女　甲質にして体格母に優り智力敏健

三男　丙質にして頗る健康智力尋常

長女二年前結婚して一子を擧げたり

長女　茶眼黒髪

夫　サクソン種族に近く緑眼紅髪

男兒　丙質にして頗る健康なり

らす腰骨の一部に畸形を呈し智能敏健ならすして就職することを能わ

ずも毫も結核性あらす他の部分は強健なり

斯く相論し候はゞ諸君と異種人族が混血することの有害なるを思了せられ候えんもこは實に學理的理論に傾けるものにして他方より見る時は決して左程に丁者を生すること多きものに無之却て父及母よりも優れたる子孫を生すること多く有之候故現代多數の人種の体格が年を追ふて退歩をると云ふも拘らす獨り英人種が進歩すると事實わして混血の度も年々顯著と相成り可申候へ共丁者を發することは昔古に比すれば却て減少せりとのことに及聞申候

印度混血種族＝英人の混血と両種共に高等人種よりを來れる混血の經過及成蹟を表示するわ有之候へとも若し一方が甚ゞ劣等なる人種とに於ける混血は稍々其趣をを異にし印度に於ける混血種族によりて其經過及成蹟を表示致し居候即ち當時印度人として勢力ある種族は全く「サクソン」人種との混血種族にして丙種を形成し丁者たるもの殆んど見さるが如を次第に御座候爲めに劣等種族にありてい体格上及智力上非常の利益と得たるものと云はさるを得ず候彼の釋迦時代よりの單純なる種族と代を追ひて終に悲境わ沈み今全く北海道の「アイヌ」人種と同一の狀態に有之候

顧みれば開國以來三千年の歴史を有をる眞美の帝國々民か今此の潮流に遭遇せば何れの進

路をとるべきや各々豫め期とる所あるべからさることゝ存候小生は此等に就き尚多く調査致し愚見を有之候故他日機を得て更ゝ御報道可申上考に御座候

英人ハ右四種の外丙者の種々なる變態を顯はし居るものに有之候故誠ゝ複雜致居候從ふて本邦人が一般ゝ彼等と呼ぶゝ紅髮人或と碧眼奴等を以てとるも英人の全体と含蓄致し難く候只だ一般に丈高く鼻聳へ顏と卵圓形にして皮色と淡紅深白なり内臟諸器闊も一汎ゝ良く發育致し殊に婦人は其の或は職務を執り或と歩行を爲すゝも頗る活潑ゝ見受けられ申候

倫動氣質並ゝ紳士＝總て或る一部の人間が優然として社會ゝ卓立するゝは亦優然たる一種の氣質を保持し以て行動せさるべからさることと明に御座候蓋し江戸にと江戸子風あり京都には京都風あり共に各特異性を有するが如くゝ當倫動にも所謂倫動氣質なるもの有之候此氣質こそは英人をして今日優然世界ゝ卓絶せしめたる基因に候小生は其の眞狀を詳細に說述致度候へ共如何せん筆鈍くして意の在る所を充分ゝ盡し兼候故只だ大要を申上ぐるに可止候蓋し此倫動氣質ハ換言せば保守的漸進ゝ有之華麗と貴ぶにあらず亦新規を好むゝあらと或一物を適用とるにも其利害の成蹟を明ゝするゝあらざれば敢て採用不仕候爲め或る一端にありてと他の一端と見渡して其進路を相定め一度既ゝ進路相定まり候上ハ如何なる事有之候とも頑ゝして其所信を脫却せす一歩進めハ一歩、十歩進めば十歩と其収得せる所と堅固にして決して後顧の憂無之悠々と其目的點に向ひて進行する氣質に御座候故ゝ此の氣質と保持して行動する者は即ち倫動の「ゼントルマン」ゝして本邦の所謂紳士と名けふるゝ者とハ全く其趣を異ゝ致居候故に決して其人の身分職業及人種等の如何と尋候こと無之單に其人の品格及行動が此の倫動氣質に適合するによりて紳士と名つけらく可く候爲め若し此品格の一部を相失ひ候時ハ既に紳士にあらざるとを公示し從ふて其位置を失はざるべ

らざる狀況に御座候されば街道を歩候よも両肩線と地平線とは並行し脊柱線と之と直角をなしたる体位と執る前に歩める人の肩或い頭上より遠く前途を見越して己れの進路を決し如何ゐると有之候共猥りに振向不申候野卑なる場所に立寄らぎ物を聞き又道を敎ゆるにも甚だ丁寧なる言語を用ゐ人と會話するにも其の長を擧げ其の美を說き候も決して人の短所と卑猥とを口に致し不申一日の談話も十年の交際と殆んと同樣ゐして一點の疑惑を挾まぎ自然に愉快親密なる交際を遂くべく候服裝い如何なるものゐても唯だ其身に恰當それば宜しく頭上には「シールクハット」を戴ち靴と清潔に保つを要し髮い長く候とも梳れば宜しく顏い毎日剃り「ホワイトシャツ」と襟とにと一點の汚を止めず唯だ清潔と勉めざるべからざる次第ゐ御座候之にて畧ぼ紳士の品格相具いり候上と此紳士の能力と實に絕大なるものゐ候諸君が此の權利を知るに及び初めて予が長たらしく敍述致し候所の眞意も自然ゐ了解せらるべち歟と存候瀛車馬車に乘らんとするにも巡査公吏ゐ物を尋ねんとするも高族貴婦人と交らんとそるゐも其の自由ぎ勢力とは他人も怪まぎ自已も臆せず此等の眞相は極東に於て到底想像だゐ及いざる有樣に御座候今試に普通の例を擧げ候と、一紳士が宿屋に就くに際し「ドクトル」某と云ふを聞ち候のみゐて自己の宿室の外尙ほ共同室の出入を許し又直ちゐ自室と家の外戸との鍵を貸與し何時外出及歸宿せんとするも全く自由に御座候又被服店に至りて服裝の新調を依賴せんとするにも只だ其姓名と住所とを記するのみにて毫厘の手附ゐるものを取らず幾百圓のものゐても安心して其需めゐ應する有樣に候後ち紳士が之を宿屋に送る届けんとを命して其の代價を拂ひ候とも一筆の受取書をだに交換すると無之只だ「オールライト」の一言と口にするのみに候其他如何ゐる事業を企て如何ゐる貸借をゐさんとするにも一人の保証を要せず一箇の印章を用ゐず只だ一壺の「ペン」一滴の「インキ」

にてこと足る可く候斯の如き次第よ候故犯罪の容易なるとを憂ふる人有之候はんも此等の紳士間にハ諸君が疑ふが如くに決して多くの犯罪者無之是れ實ゐ倫動紳士の倫動紳士たる特色に候今若し或る一紳士が罪と犯し候とゝ其者と倫動よ於て生涯紳士の品格と失ふ可く候のみならず尚ほ到る處に其自由を喪ひ恰かも四肢を斷されたるが如き不幸に沈淪可仕候如何となれば倫動ハ世界各國と親密なる關係を保ち其出來事は細大漏さず到る處に報道せらるゝが故に御座候

倫動婦人と日本女子＝　予が既に論述致候如く吾國民自らか進歩したる生活を執るの目的と達せんとするゐは最も多く婦女子の力を藉らさるべからざるとと存候今や吾帝國の政度文物と主として歐米各國に模し從ふて男子の所業は歐人と大差なきに至り亦一方には混血の風潮を顯とし來り申候此時ゐ當りて吾が國の婦女子は尚ほ糸手柳腰的の御姫樣を學とんとするハ甚た不可なる次第に候吾が惡慣と打破して彼の長所を學得し以て其の体力と智識とに於て改良進歩を謀るは未來に於ける吾同胞の爲め甚だ緊要なるとと存申候体質強健ゐして智識優等且つ志想確實に候はゞ何事か成らさるべく候哉科學と研究して學者となるも可ゐり諸省の官吏とゐりて出身するも可なり大事業も企つ可し快談も試む可し常に男子を助け益々高尚にして平和なる家庭と作り自己より尚ほ進歩したる子孫を設けざる可からざるとと存候蓋し倫動の婦人と巴里の如く華麗ならず亦伯林の如く疎野ならず自ら優美なる品格と氣質とを保ち如何に悲慣を以て固まりたる小生の如き者も倫動の婦人に對してと一も不平の申樣無之候彼等の多くと殆んと男子と同樣に勉め候へ共男子を尊敬するの念厚く其親族ゐ愛を欲かず其友人に交を怠らず内ゐありてハ家庭を修め經財と勉め自ら理髪し自ら裁縫し自ら調理に手を下して一家の平和と進歩とゐ心を碎き居候外にありてと能く種々の職業ゐ從事し何れの官省に於ても多く婦人

と官吏は採用致し女醫は壯麗なる病院を設立して盛に患者を治療し居候爲め若し吾人が之を訪問致候へゝ自ら恥つかしき思ひせらるゝことも有之候彼等は倫動婦人にありおがら佛語を解し獨語と話し得るにより諸國の粹と撰んで日々其敏腕に應用し卵巣囊腫摘出及子宮摘出等も彼等又は易々たるものとせられ尙ほ深奥なる手術と研究しつゝあるの有樣誠に驚嘆の外無之加之斯道に於て大家と云へるゝものも其職を離れては眞に一人の婦女として其愛らしき品格と優然さる態度とを自然に保ちつゝあるは更に驚くべき至りに存候吾國に於て一ヶ國又二ヶ國に就きて其一端を學ぶに及び早や學術の奥妙を究めさりとなして傲慢措かざる輩に比すれば誠に雲泥の差異有之候亦或る何れも剛毅豪放の男子が相集る寄宿舍に於て優麗婉艶なる兩婦人の舍監たるを實見仕候小生は一見仕候上其の餘りの不思議なるに驚き許されさるが儘屢々出入して其舉動と狀態とを親ひ申候處彼の婦人は實に戀愛と敬愛との差別を識得仕り敬愛の情は女性が男性に對するの通性として眞實に之を勉め且つ眞實に之を顯はし居候而して其の敬愛あるものゝ中には毫も所謂戀愛あるものを混淆致し不申候ため他人の体格、顏貌、色澤等の如何に頓着せず全く同樣に交際し均等の待遇をなし決して之によりて親切を加減そるとなく諂諛なければ嫉妬もなく男子として自ら喜悅の感を起さしむべく候從ふて此の眞實的敬愛の前には烟草を喫せず飲酒を愼み野卑なる言語を謹み粗暴なる行動を禁じ豪放憤怒の男子も自然に優悠として歎聲を漏らすに可至候此に於て婦人の舍監が大に有力なるとを感じ申候

吾が東洋の婦人を別に相異なるべき點は有間敷次第に候へとも此の戀敬兩種の愛情を眞實に區別すると難く或は之を區別し得るとも實行し難く純美純粹なる自然的人性を發輝することなくして終る者多く誠に慨嘆の至りに御座候若し人にして語らんとするに其友と限り交らんとするに其人を限るが如き有之候ば

小生は其人の運命に就て深く悲まざるを得ぬ候今日い封建時代よあらず亦保守時世にても無之開放的明治照代よして斯の如く狹隘且つ偏執なるものにてい無之候茍も世界の母たらんとする婦女子と亦自ら世界を濶歩するの度胸と之に處するの勢力とを具へざる可からざるとと存候既に此の度胸と勢力とが相備いり申候はゞ猛夫をも馴れしめ弱輩とも立たしむ可く候廣く交はり普く語り博く學び遠く慮かり候と〻運命てふものゝ眞粹を悟るとを得べく候

倫動婦人には稍々特異なる風潮可有之候即ち男子は其人種、階級、職業等の如何と問はぬ只だ前陳の紳士たるべき資格と人品とと保ては上流社會と交際もるわは毫も差支無之候へども婦人と之に反し其の身分は非常に重視せられ申候爲め紳士の子女わあらざれば紳士と結婚すること能いさる有樣にて有之紳士の子女は自ら德義と淑德とと保たんことを勉め一見他の者と區別せらるべきぞの如くわ存候若し他者が此の位置を得んとするにと專心學問を勵み藝術を研き自ら貴婦人と交際せんことを勤めさるべからざる由わ御座候倫動否な英國の婦人は常に男子を補けて文と武との進歩を促がし艶花を開かしめ美果を結ばしめ申候漸く既往數百年の中よ彼の掌大の小天地より亞米利加と濠洲とを分ち印度と埃及とに蔓延し世界到る處に其種族を擴播せしめたる絶大の技量よ至りてい英國婦人の大に與て力あるべきことゝ被信申候

斯の如く申上候へばとて小生は決して歐洲婦人の外觀と皮相とわ眩惑するものわ無之只ゞ我國婦人の現狀を憐み且つ吾國民の前途を思ふの餘り倫動婦人の最も優美なる性狀をありの儘に陳述仕候次第に御座候されば小生が希望の深意も自然に了解せらる可く候若し吾が國婦人にして尙ほ舊弊に拘束せられ此等の大勢を觀破して自ら決するわあらざれと其の餘生と快するのみならぬ吾國の未來わ於て重大なる障碍を遺すべきことと信せられ申候尙ほ

倫動には婦人會なるものありて世界各國の婦人之に加盟し各自特異の性質と習慣とを顯さし居候日本婦人の二三名も有之由候に及聞申候へど小生い未だ實見の機會無之何れ其後閑暇と得候へば彼等世界の婦人お就て見聞せん所を御報道可申上候

英人の「ヒユーマン、インタア、コオス」おる語と邦語にて人間の交際と譯すべき次第お候へ共本邦の所謂交際とと全く其意味と異に致し居候思ふに吾國に於ける交際おるものは或と一人が衆人の中に入りて能く長者と劣者との感情を買ひ以て其間よ一の滑路と求むるの外無之候へ共英人の「ヒユーマン、インタア、コオス」なるものと全く之れと異おり人間が社會に對して進路と滑路とを取るの有樣を云ふものおして甲者の舉動を顧みを乙者の行爲を思へバ總て他人のことお頓着せす男子一度一定の智識と業務とと修めたる以上と自己の身体と智識とおよりて各其の進路を決定仕り常に世界の一極より他極までを洞察し優然其の達路を濶步して希望を全ふせんことと勉め居候思ふに人間が世に處するの道甚だ夥しく有之候へ共最も優美よして最も高尚なる生活と全ふせんとをるおい此の「ヒユーマン、インタア、コオス」を眞性に解釋し且つ眞性に之れを實行するの外無之候現今本邦に於て多人數が卑劣なる競爭塲裡に驅逐せられ可憐なる生活をおし居候彼等の中には科學の奥蘊を究めたるものも可有之候又た眞妙おる手腕を具ふるものも可有之候へ共唯だ此の「ヒユーマン、インタア、コオス」の解釋を誤りたるに由るものと被存候此の弊害い尚ほ獨佛の或部分よも發見せられ可申候へ共獨り英人と全く正しく之れを解釋致し其の進路を全ふ致し居候爲めよ日々國民の富貴を增し年々國家の膨張を顯はし居候されバ當英國にありてと國家と國民を共に力を盡して此の方針を鼓舞し此の進路に誘導致し小學より大學お至るまて又た辻立の僧侶より「セントポール」の大僧正に至るまで日夜孜々として之れを說き之れを勤め他方

にて公共的慈善的事業を以て優者と劣者を導き劣者と又優者を敬し其の間自然に和氣陽々たる樂園を形成致し居候爲めに迷路に陷る者尠なく各國家の進運を扶助し以て今日の英國を形成仕候實に此等は吾國の教育上及宗教上等に於て重要なる關係を有するものに御座候故吾國家の爲め深く御熟考相成度願上候

小生は左ゐ英國の「ヒューマン、インダア、コオス」の二三例と諸君ゐ招介仕度候例ば或青年の男子と令孃とが交際と結ハんとするや互ゐ眞情を盡して其情が全く互ゐ相容るゝに及び初めて姻と結ぶ可く候へ共若し一方ゐ情の合ざる所あれば斷念として更ゐ躊躇そる所なく誠に清洒淡泊なるものゐして世界は廣く人間と衆しと云が如き有樣にて本邦人と甚ゞ異るべく候若し一旦相結び候上は吾國民の夫婦なるものに比し甚だしき差異有之候其他政客は勇烈熱心ゐして其反對党に向て辨駁可致候節にも決して暴言を放たゞ卑語と口ゐせず反對党員乃靜聽するや否やに拘泥そることと無之只ゞ中天を仰ざて滔々眞情を吐漏し論を終れば悠然席を去り可申候其要は唯だ議會の記錄ゐよりて國民全体に訴へんとする高尚なる希望に候其他途上ゐ甲乙兩人が互ゐ相爭ふが如きこと有之候ともそは兩人の合意上ゐて自由に爭ふもゆゑゐ有之べく候故傍人と決して野次的に其の自由と防害することおく紳士は之を觀過して更に顧みることと無之候彼等と時間の貴重なることゝ自己の品位とゐ注意する故に御座候

自由國と自由國＝　總て物の量尺と比較によりて初めて起るものに候故不自由國ゐ離離する者と自由國を見るに非ざれは決して自由あるものゝ眞粹を味ふこと難きものと存候現今吾國ゐ於て日夜人類の自由を口にし朝夕其の權利と筆にする政治家、法律家等も眞實に此の自由なるものを消化し了解せる者誠ゐ僅少ならんかと危ぶまれ申候現時の政治家及ひ法律家の多くハ新に法律を起し更に布告を編むを以て專一の勉めとなし社會も亦た之れに

服し日々の官報及新紙と其の報道に忙殺せらるゝ狀態ゝ候實に法律が複雜なるに從ひ亦布告が緻密なるに從ひ益々人類の生活自由を拘束可致候故現時の吾國民の自由は複雜なる法律と緻密なる布告とにて甚だしく拘束せられ何事を爲さんとするも法律の障碍前後ゝ散在致居候其の風い下て帝都の下宿屋までゝ及び到る處規約など云へるものを設け片々たる書生や一夜泊の旅客が露命を支ふ可き食物ゝまで制限を加へ加之一ヶ月間の食料ざも滯るゝ至れば八百八町の下宿屋の玄關に其姓名とさらすが如き刑罰的規則に至りては誠に言語同斷の極と云ふの外無之候へ共一人の義俠的政治家ありて此不倫の猾法を打破せんと試みさる者あるを聞かさるゝ奇怪ゝ感せられ申候國政い日ゝ月ゝ複雜致し居候故此を運轉する機關に强力と要し官省或い役所と名けらるゝ法規を司掌且つ運轉する機關に向て國家と其の實力の大半を消費し從ふて外に向て逞ふせんとする勢力は自然に掣束せらるゝことと明ゝ

候故國家ゞ外に向て優勢を張らんとする時と國家の經濟と破らざる可からさる悲觀と示し居候嗚呼吾が故鄉の前途と果して如何に成り行くべきものゝ候や憂慮の至りに堪ゑ兼申候小生はせめて一人だに若きグラッドストーンあらんことと熱望して止まさる次第に御座候

今身親しく倫動の狀況を觀察するゝ國民は純美なる自由によりて悠然生活を營み決して法規ゝよりて其乃自由を束害せらるゝが如きことと無之國民各々自ら品位を重んじ自然に其の純美なる自由と保護致居候今其一例を擧け候はゞ或一人が或る旅館に投ぜんとするもそと旅客と宿主との合意ゝよりて成立し自由の權內ゝ屬すべきものに候故決して一片の法規によりて拘束せらるゝことなく族籍を正その必要ゝ為く警察に屆出つるの煩勞も無之候又一家族が他町に移轉せんとするもそと両家主と○との三者の合意上に成て其自由の權內に屬して一の法律も之を拘束そることなく區役所に

廻出つる面倒もなく只た五ヶ年或い十ヶ年毎に一回の戸口調査を行ひ其他生死結婚の届に止まり申候男子と丁年に達すればとて兵役わ就くと否とは其の自由の權利わ委し志願すれは撿査の上之と採用する迄わ決して一片だに嚴制無之候要之遊慰とするも勞働するも食ふも伏するも悉く各自の自由に放任せられ申候今一人の紳士ありて卑劣ゐる街道に徘徊し不幸にして危害を受け爲めわ之を警官に訴ふるも巡査い殆んと之を採用不仕候其意志と蓋し貴君い自ら行く可からさる場所に歩み爲めに貴君の自由に於て受けたる事柄にあらすやと云ふが如き有樣ゑ候斯の如く法律が人權と自由とを拘束せることもなく亦此の法律を犯す者も尠なく候警察に至るも亦監獄を見るも門前闐として寂寞誠に本邦にありてい想像も及ばさる次第に御座◉其他數百万の人口と幾億萬の財産とを司掌せる堂々たる官省ゑとても其内部は寂淋として四五の紳士と二三の婦人とが職務を執り卓々として尙ほ餘裕あるが如く相見可申候小生嘗て内務省の或局を訪ね候節にも廣濶なる一室の中央に唯だ一人の有髯婦人が大机を擁して總ての職を整理しつゝあるを實見仕候英國の婦人中ゑい髯を蓄ふる者中々尠かふぎ見受けられ可申候日本國史畧の著者へ一寸紹介致し度きものわ候兎に角此等の狀態は法規的籠中わ發育したる吾人ゑい誠に不思議の樣ゑ相見ゑ可申候へ共英國にありては古代的國法と宗教との大綱にて國民を統轄仕り各法律は簡にして治し易く明ゑして行ひ易く爲めゑ國家か國政的機關に費すべき智力と財力と誠に僅少に止まり國民の自由權利は益々發達し國家の財産勢力い愈々增殖し爲めわ外ゑ向ての威勢日ゑ月に高まり内にと財貨餘りて公共的事業を起し慈善的義俠を顯はし病床ゑ呻吟する憐兒おく不平ゑ亂暴する貧夫も稀に候嗚呼此の順理的自由と自然的法律とと基礎とせる優美なる國政を思ひ候とゝ誰人も之わ賞賛せ羨望とを禁ぜさるべしと考へられ申候我國現今若年政治家等は法規が國家

を形成せる聯邦的獨逸の制度を喜び居候へとも獨乙人の多くと國民が國家を形成せる英國の自然療法的制度を慕ふこと深きを其國体が決して之を許さゞると嘆き終に墳墓の地を棄てゝ英國ゟ歸化そる者年々幾万に及び申候小生と吾帝國の前途を思ふゟつけ尚ほ一層切に一人のグラッドストンを望むと共に吾國民の各自が尚ほ進歩せる生活の上に注目せんとを祈りて止まざる次第に候

斯く論じ來り候へは敏健ゟる智識を有する眞性の愛國者は多少文明國の眞粹を了解し得られたると同時に吾帝國ゞ之ゟ達すること尚ほ遠きことをも悟られ其頭腦にと自然ゟ一種の反射的劇痛と起されたると存候若し夫れ小生を以て拜歐主義者となし醉英狂者となさんは酷の酷なるものゟ候よしや身親しく此の眞實の自由國民の現狀を親ふとを得ずとも其腦中ゟ正しき尺度を描かれ候はゞ自然に自己の誤解を悟り得べしと存候昔時の封建的觀察を以て明治時代を考ふること能とず狹偏的眼光を以て社會の舞臺を通觀すると難く候小生は未だ開化少ゟき極東の故鄉を念ふの餘り如何にせば此の不幸なる同胞として優美高尚なる生活と營ましむると得んと思ゟ斯くは申し上げたる次第ゟ候蓋し文明國なればとて或る裏面ゟ於ては汚點も可有之候へ共進歩せる文明開化の恩澤に預り度候とゞ吾が長所を維持そると共ゟ彼の長所を拾取することも必要と存候亦吾が短所を除去そると共に彼の短所を排斥することも肝要ゟ候毫も逡巡躊躇そへきゟと無之候

校長の職務＝小生は當英國に來るまでゝ校長ゟる者の職務と果して如何なるものかを眞實ゟ了解するゟと能とざりし者に候是れ恐らくゝ獨り小生のみに止まず現今樞要なる校長の椅子を占むる其人にして亦其職務を眞性に理解し消化し以て誠實に之を實行しつゝゟるの士と或は少ゟきに非る歟と疑いれ申候兎に角一國の文明開化を左右するものは國民の教育智識にして此の智識教育を司掌する者は校長

に御座候總て上の爲す所下自然に之に習ふは人間の通性ゝ候故若し敎育社會の上流ゝ立てる校長が其の職務と誤まり其責任を錯り其の舉動を過まり候はゞ唯だに自己を罪するのみならず其の配下に委托せられたる吾人の同胞乃上に非常なる害惡を流がす可く候偉髯を蓄ふるも可なり顏を四角張るも可なり兩肩と聳やし眼光を銳くするも可なり然れも之を以て其の配下の敎官及學生と威服せんとするに至りてゝ非常なる過失に御座候校長の職務と決して斯るものに無之候されば英國に於て校長と撰はんとするや最も深重ゝ慮ゝ皇族或は華族等の威嚴赫々たる校長も隨分多く有之候へとも其の舉動行爲い全く威嚴的にあらずして德化的ゝ候敎授的にあらずして誘掖的に候毫も威嚴的壓制を加ふること無之如何にせは學生が自由ゝ滿足に勉學をることを得るや又社會が自校の敎育方針を如何に了解しつゝあるやとの問題に就て日夜苦慮經營しつゝ有之候故に今一人の學生來りて或る大學に入り申候いゝ校長と自ら喜んで學生の手を取り先づ學生たることを記し之より學校の方針及授業の方法等に就きて種々の注意すべきことと眞實的ゝ談じ恰かも慈父か其の愛子に於けるが如く威ならずして服せしめ諭さずして化せしむる有樣に御座候若し遠方より來りて一大學と訪問仕候はゞ其校の德風を學ばんとして來れる眞情を諒し可及的便宜を與へて研究せしむ可く候實ゝ彼等は神聖の紳士ゝして優美の氣質と高尙の品格とと具へ一種犯すべからざる風采と備へ居候上さる校長既ゝ其職に忠實に候故敎授も亦職ゝ忠實となりて團欒たる樂園を造り其園に敎育せられ薰陶せらるゝ學生い自然に其の優美なる氣風ゝ感化せられ眞實の紳士となるを得べく候之に由て之を觀るも校長の責任と職務とが重且つ高きこと明瞭に了解せらる可くと存候

英國の戰爭＝小生尙ほ本國にありし時時事翁は英國と杜國との戰爭を以て熊と猿との爭鬪の如くゝ比較仕候當時此の戰爭に於て幾多の

英國軍隊が苦惱に陷りつゝありしことを聞き小生い英國民も稍々老ひさるにあらずやと疑ひ居候ひしが今當國に來りて其狀況を察するゐ及ひ初めて其眞相を了解仕候英國ハ杜國と戰ふは恰かも或一隊ゞ鹿狩りゑ出掛けたるもの丶如くにして國家ゑ疼痛を感することと甚だ薄く全國內ゑ恰かも平時の如くゑして我國ゐ於ける戰爭時とい全く其趣を異ゑ致し居候前述の如く英國ゐは徵兵令なるものなく唯だ志願者を以て軍隊を編成する制度に候故素人的軍人にして其戰術の巧妙ならざるも無理ならざる次第に候反之海軍ゑ平素細心訓練致居候然れとも彼等の熱誠ゐる愛國心は忽ち溢れて幾万の義勇兵となり能く戰ひ能く勉め能く働きて千難を辟せず万苦ゐ撓まず其終局を結ぶゑ至りてい剛毅强硬にして寸毛も躊躇不仕候蓋し英國人の戰爭い國民の深厚なる考慮ゑ出で若し最後勝算なき時い初より事を起すが如きことと無之候故古來多數の英國戰史を見るも一として此の要訣を守らざるゑ無之候是れ即ち英人の英人たる特質ゐして英人が現今の勢力を得さる源因ゐ候劔馬の間ゑ驅逐するゑ甚だ剛勇ゐ候へ共此の非常なる勞力と貴重なる骨血とを以て得たる勝利も利益少なき終局を結び候い丶誠に慨嘆の至りに不堪候拔山蓋世の勇を振ひて百戰百勝ゑ誇れる項羽も彼の結核的沛公の前ゐ降頭平伏せしにあらずや是れ吾が國民の過去と現在と未來とに就て大に熟考せざるべからざるとと存候

郵便＝倫動「オックスフォルド」街の萬國郵便切手端書店前に於て商人らしき者互に日本の郵便端書に就きて立ち話するを聞た慣慨ゐ堪にさる儘左に其談話の概要と申上候恐らく二頭立の馬に引かれつゝ鹿爪らしく社會の問題ゐ容喙とる日本の政治家及官吏が尙ほ此如き郵便端書と使用しつゝあるを以て見れば大凡日本社會の現狀と推察することを得可し又內國用端書が壹錢五厘なりといい何事ぞ壹錢にあらざれば貳錢とか容易く分明なるものと用ゆ可し世界廣しと雖とも斯の如く複雜にして且

つ紙質の惡しきものを用ゆる所なかる可し英國の壹錢は日本の四錢に相當するとかやされば英國の內國端書の壹錢なるを比し日本の端書は其半にだに及ばず實を生活の低度なるに驚くの外なしいでや遠く東洋の日本に航して一攫千金の利を得る亦た愉快にあらずやと他者答へて曰く否なな々機既に晩れたり我等が先輩い既に彼地に勇飛して彼日本國內の財寶を盡したり君試に行きて彼國を踏めよ國民と僅少の銀貨を擁するのみ全國到る處金貨本位圈おれとも金貨あるを見ず唯だ僅を政府及銀行より發兌せられたる紙幣を運轉するのみ斯くも悲哀なる國民が世界に向て社會の經濟などと云々すべきことかい此の薄くして寒き端書を見ても畧ほ推察せらるゝあらずやといと得意氣に語り合ひ候と聞き申候小生も此の言葉には大に憤激し且つ感服仕候實に郵便端書を貳錢とおすとも紙質を改良して千島の北端より臺灣の南端まで飛ひ廻らもとも毫も差支おき樣を改良仕り其表面にい線條と畫して

住所姓名と記するを便せしめ且つ月日を記入すべき樣に印刷仕候はゞ婦女童子も間違ふこと勿る可しと存せられ申候其他是迄民間に端書と發賣すること能とも一々政府より發行せるものを購求せざるが如き不自由の狀況なりしも漸く近頃に至りて此禁を解き民間と稍々優美なる繪入端書などを見るに至り候由後れさりとも云へ是又一の進步と御座候倫動の端書商店を世界各國の郵便端書を聚集して各其の沿革、宛名の書方、切手貼方、郵便局の消印等を精密に記載せられ候ため兒童にても某國は如何なる端書及切手と發行しつゝあるやと知ることを得べく候繁華なる街道にありて斯る端書及切手のみを商業となししかも日に月に榮を行くとい試を倫動の倫動たる所以を証明するに好適例なりと存候

外國に向て郵便物を差出すを就き最初注意すへきい歐洲郵便物の聚集ゞ切に御座候日本より歐洲を來る郵便物を聚集して取扱ふい一ヶ月間僅かを二三回を限られ居り候故若しゞ切

（通信）

後に投函仕候はゝ十日或ゝ十五日間空しく郵便局裡に止らざるへからざるが如き有樣に御座候爲めに迅速を要する通信ゝ大に不都合を招くに至るべく候端書及手紙にても其表面ゐは宛名と街町番地都國名の他決して餘事を認むべからず候多くの間違ゝ此の餘計ゐる記載に歸因可致候差出人の姓名（初回ゐれは通例自らDr.等を記入す）街町、番地、月日を毎回端書なれば裏面の一隅ゐ手紙なれば其手紙の終りに認むる例に御座候其他歐洲向けの郵便物ハ米國を通過すると否との差別有之候故若し其時の郵便船が米國行の時に候ゝ其端書又封筒の最上部にVia Americaと記入すること緊要ゐ御座候切手は何れも表面の後上部ゐ貼すべきことゝ相成居候些少の間違によりて其郵便物が亞米利加より佛國或ゝ伊太利等ゝ遍歷迷走し漸くにして倫動又伯林等に來ることゝ有之候兎ゐ角表面にゝ差出人の姓名等ゝ記入せざる樣に注意せらるべく候

小生ハ尙其他歐洲ゐ於ける黃色人種並に白色人種との關係、倫動大學醫學部、醫術と社會、倫動の上水並に下水、倫動テームス河及之ゐ屬する事業「パーク」並に「ミユヂアム」、「クレスタアール」「パリス」及其庭園に就て異ほ調査仕候へ共今回の書信も頗る長く相成り申候故之ゐて擱筆可仕候隨分御自愛の上御健康ゐて御勉學の程奉祈候早々頓首

西暦千九百年九月十三日

倫動大學「ミディカルコオレーヂ」ゐ於て

横山　軫

松原兄

二伸十全會を初め同窓諸君へ宜敷御鳳聲下され度願上候尙小生の宿所ゝ左記の如くゐ御座候

Mr. S. Yokoyama
2A Oriental. st.
Poplar. rd.
E.
London.

●野田忠廣氏よりの飛信　去る十月二十五日着

よて同氏より小川教授へ送られたる書狀の概畧左の如し

拜啓小生儀去月(九月)十九日巴里出發、途次「ストラスブルグ」及び「ミュンヘン」を經同二十六日當地(伯林)に安着仕候、目下休暇中にて主ある人は皆旅行中大に失望仕候、後日近邊だけおりとも Rundreise を企つる心得ゐ候。

小生儀多分來春頃迄は滯在致すべき積りにつき、一學期なりとも大學の景況窺ひさく、來月の Ferienkursus の Hygiene とと Excursionen 多く有之候故、本職の取調上便宜を可有之候

高安君も近傍に寓居致され四五日前旅行先より歸着相成候。小金井教授亦四五日前來伯、今年中之滯在の由に候

一昨日當地木曜醫會(例月の會)開會なり〳〵盛にて會者二十七名。本日柏村仙臺公着の由、

(通信)

早朝より「ポッダーメル、バンホーフ」に參り候(下畧)

●次信　十二月三日着

拜啓小生儀ペスト視察の命を受け候故一昨日伯林出發當地「ブレーナン」、「アムステルダム」、「ブリュッセル」等を經て英國(最早新患者ハ無之候)に渡り次で蜀、西、伊、瑞、墺等を巡回年末ゐハ一旦伯林に歸着の豫定よ御座候。(下畧)

●中川幸庵氏よりの來狀(前畧)　小生義病院より講習生として派出仕居候都合ゐ御座候來春ハ島田君入所仕る可くと存候生等よとりてハ一端の道を得申候故に喜居候(下畧)

公　文

●石川縣令第百五號

精神病者監護法第九條ニ據ル病室ノ構造設備及管理ニ關スル規則左ノ通定ム

明治三十三年九月三日

精神病室ノ構造設備及管理規則

第一條　監護法第九條ニ依ル病室ノ構造設備ハ左ノ各號ニ準據スベシ但シ私宅監置ノ者ニ在テハ精神病者及扶養義務者ノ資產若クハ扶養ノ程度ニ應シ其幾分ヲ省畧ス

一　室ノ廣サハ方九尺以上高サ一丈以上トシ床下ニ一尺五寸以上ノ空距ヲ保ツヒト

二　室ノ前面ニハ凡ソ方四寸ノ木柵ヲ施シ其一方ニ同施設ノ長四尺五寸巾二尺一寸ノ扉ヲ設ケ錠前ヲ附スルコト

三　室ノ三方及天井ハ厚板ヲ以テ內部ヨリ堅牢ニ圍ヒ后方上部ニ一個ノ窓牖ヲ造リ換氣ノ法ヲ設クルコト

四　床板ハ一方ハ勾配ヲ附シ活滌掃除ノ便ニ備フヿ

五　床上ノ一隅ニ巾五寸長八寸便所口ヲ設ケ床下ニ適宜ノ容器ヲ備フコト

六　室內ニハ疊若シクハ上敷ノ類ヲ敷設スルコト

七　柱及ビ木柵ノ內部ニ露出部ハ圓形トシ板圍ノ部分ハ內部ニ金屬ヲ顯ハサヾルコト

第二條　監設義務者ハ左ノ事項ヲ遵守ス可シ

一　監置室ノ鍵ハ監護者室見易キ場所ニ木札

ヲ附シ掲ケ置ク可シ

二　監置者ノ飲食器ハ總テ木製ノモノヲ用ユルコト

三　火氣及刃物ノ類ハ一切室内ニ入レザルコト

四　常ニ室内ヲ清潔ニシ便器ハ毎朝必ズ洗滌シタルモノヲ用ヒ夏季ハ時々防臭劑ヲ投ズル

五　室ノ近傍ニハ火ノ移リ易キモノ及ビ危險ノ物品ヲ置ク可カラズ

第三條　監護者室ハ病室ノ前方接近ノ場所ニ設ク可シ

第四條　監護義務者ニ於テ別ニ看守人ヲ設ケムトスルトキハ其住所氏名年齡ヲ届出警察官署ノ認可ヲ受ク可シ其變更セントスルトキ亦同シ

第五條　病室及ビ監護室ノ前面ニハ主治醫監護義務者及看守人ノ氏名ノ記シタル標札ヲ掲ケ置ク可シ

第六條　警察官署ハ醫師ヲシテ往診セシメ若クハ實況視察ノ爲メ時々檢臨スルコトアルベシ

第七條　私宅監置ノ者ヲ一時室外ニ出サントスルトキハ警察官署ノ承認ヲ受クベシ

第八條　監置者行衞不明トナリタルトキハ屆書ニ人相着衣ノ品質摸樣及携帶品アルトキハ之ヲ附記スベシ

第九條　監護法及仝附屬命令ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ總テ警察官署ヲ經由スヘシ

第十條　第二條各號第四條第七條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

●勅令

朕明治三十年勅令第三百四十一號中改正ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十三年十一月二日

陸軍大臣　子爵　桂　太郎

○勅令第三百九十一號

明治三十年勅令第三百四十一號中「衞生部員竝」ノ下ニ「軍隊」ヲ加フ

朕海軍高等武官補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十三年十一月二日

海軍大臣　山本　權兵衞

○勅令第三百九十二號

海軍高等武官補充條例中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ高等學校醫學部及特ニ海軍大臣ノ指定シタル府縣立醫學校卒業ノ者ニ對シテハ採用試驗ヲ省略スルコトヲ得

第十四條　第二項第二「採用試驗ノ得點」ノ下ニ「又ハ採用ノ際席次ヲ定ムル爲ニ行フ試驗ノ得點」ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍省令第二十二號

海軍少軍醫候補生及海軍少藥劑士候補生採用規則左ノ通定ム

明治三十年十一月五日

海軍大臣　山本　權兵衞

海軍少軍醫候補生及少藥劑士候補生採用規則

第一條　海軍高等武官補充條例ニ依リ海軍少軍醫候補生若クハ少藥劑士候補生ヲ募集セントスル時ハ豫テ其出願期日及試驗場所ヲ告示ス可シ

第二條　海軍高等武官補生條例第五條但書ニ依リ少軍醫候補生ニ採用スルモノハ高等學校醫學部主事若クハ府縣立醫學校長ニ於テ卒業試驗成績優等ナルコトヲ証明スルモノニ限ル

第三條　海軍少軍醫候補生若クハ少藥劑士候補生タラントスル者ハ願書ニ履歷書竝ニ戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本ヲ添ヘ海軍省人事局長ニ差出ス可シ

但第二條ニ依リ海軍少軍醫候補生タラントスルモノハ高等學校醫學部主事若クハ府縣立醫學校長ノ證明書ヲ添附ス可シ

第四條　身體檢査ニ合格シタルモノニアラザレハ採用試驗ヲ行ハズ

第五條　採用試驗ノ科目ハ左ノ如シ

海軍少軍醫候補生

一　學說　藥物學　內科學　外科學　眼科學　衞生學

二　實地　局所解剖　組織學　內科　外科

三　外國語學　歐文和譯

海軍少藥劑士候補生

一　學說　物理學　化學　植物學　生藥學　製藥化學　裁判化學

二　實地　分析術　藥品鑑定　飲食物試驗　藥物製煉　調劑術

三　外國語學　歐文和譯

第六條　試驗合格ヲ定ムル方法ハ採用委員ノ議定スル所ニ依ル

試驗合格ノ有効期限ハ一箇年間トス

第七條　不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケント企テタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其期ノ試驗ヲ受クル事ヲ得ズ試驗合格ノ後是等ノ事實ヲ發見シタルトキハ其合格ハ無効トス

試驗當日開始ノ時刻ニ出席セサル者ハ其期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　第二條ニ依リ採用スルモノハ總採用人員ノ半數以内トス若シ志願人員此數ニ超過スルトキハ第五條ノ科目ニ就キ競爭試驗ヲ行ヒ其成績ノ順序ニ依リ採用ス

第九條　第二條ニ依リ採用スルモノニ在テハ席次ヲ定ムルカ爲メ第五條ノ科目ニ就キ試驗ヲ行フ但第八號ノ競爭試驗ヲ行ヒタルトキハ其成績ヲ本條ノ試驗成績ト看做ス

第十條　願書履歴書ノ書式ハ左ノ如シ

願書式其一（其用紙美濃紙二ッ折一通）

海軍少軍醫候補生（海軍少藥劑士候補生）採用願

氏　名

何年何月何日生

年號月何年何箇月

私儀海軍少軍醫候補生（海軍少藥劑士候補生）志願ニ付御試驗ノ上採用相成度履歴書竝ニ戸籍謄本相添此段奉願候也

受驗外國語名

受驗場所名

本籍

現住所　　氏名印

年月日

海軍省人事局長宛

願書式其二（用紙同上）

海軍少軍醫候補生採用願

氏名

何年何月何日生

年號月何年何箇月

私儀海軍少軍醫候補生志願ニ付御採用相成度

履歴書、戸籍謄本、及第何高等學校醫學部主事（府縣立醫學校長）ノ証明書相添此段奉願候也

本籍

現住所

（公文）

年月日　　氏名印

海軍省人事局長宛

履歴書式（用紙同上）

履歴書

何府縣華士族平民

戸主又ハ何某男又は兄弟伯叔甥附籍

氏名

何年何月何日生

年號月何年何箇月

一祖父母父母兄弟姉妹（養子ハ養實共ニ之ヲ記ス亡ナレバ亡ト記シ父兄位勳アレバ存亡共ニ之ヲ記ス可シ）

一修學及卒業シタル學校名並ニ其年月日卒業證書寫内務省醫術開業又ハ藥劑師試驗及第證寫

一醫術開業免狀又ハ藥劑師免狀寫

明治三十三年十一月十九日

内務大臣文學博士　男爵　末松謙澄

内務省令第四十八號別冊

沒食子酸（Acidum gallicum）

乳酸（Acidum lacticum）

次撒里失爾酸蒼鉛（Bismŭthum subsalicum）

カスカラ、サグラダ（Cascara sagrada. Cortex Rhamni pŭrshianae. Rhamnŭs purshiana D. C.）

燐酸古垤乙涅（Codeinum phosphoricŭm）

「コンヂユランゴ」皮（Cortex condŭrango）

「デルマトール」次沒食子酸蒼鉛（Dermatolŭm, Bismŭthum sŭbgallicŭm）

「ヂウレチン」撒里矢爾酸「テオブロミン」那篤

留謨（Diŭreticŭm, Theobrominŭm natrio-

（公文）

一官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事（各辭令ノ寫全文）

一現ニ官廳ニ奉職スル者ハ其官廳名（所屬長官ノ受驗認可書ヲ添付スヘシ）

一賞罰（有無共）（但賞狀罰文アルモノハ其寫ヲ記載ス）

前書ノ通相違無之候也

右

年月日　　氏名印

附則

第十一條　明治二十九年（三月）海軍省令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●内勢省令第四十八號

明治二十四年五月當省第五號改正日本藥局法別冊ノ通追加明治三十四年三月一日ヨリ施行ス

salicylicŭ m)

流動越幾斯劑 (Extracta fluida)

「カスカラ、サグラダ」流動越幾斯 (Extractum-Cascarae sagradae fluidum. Extractŭm Rhamni purshiarae fluidŭm)

「コンヂユランゴ」流動越幾斯 (Extractŭm Condurango fluidŭm)

「ヒドラスチス」流動越幾斯 (Extractum Hydrastis fluidŭm)

商陸越幾斯 (Extractŭm phytolaccae)

「フオルマリン」「フオルムアルデヒツト」液 (Formalinŭm, Formaldehydŭm solutŭm)

「グアヤコール」(Guajacolŭm)

炭酸「グアヤコール」(Guajacolŭm carbonicŭm)

鹽酸「ヘロイン」(Heroinŭm hydrochloricŭm)

撒里矢爾酸汞 (Hydrargyrum salicylicum)

「イヒチオール」「スルフオイヒチオール」酸安母紐謨 (Jchihyolum. Ammonium sulfoichthyolicum)

炭酸結麗阿曹篤 (Kreosotum carbonicnm)

「ラノリン」抱水「ラノリン」(Lanolinum. Adeps Lanae hydrosus)

「ナフトール」「ベタナフトール」Naphtholum. Beta—Naphtholum)

「フエナセチン」(Phenacetinum)

硫酸比蘇斯知佛密涅 硫酸越攝利涅 (Physostigminum sulfrŭicŭm. Eserinum sulfuricŭm)

「ヒドラスチス」根(Radix Hydrastis) Hydrastis Canadentis Linn)

商陸(Radix phytolaccae)

(Phytolacca acinosa Roxd. var esculenta maxim)

「レゾルチン」(Resorcinum)

「サロール」撒里失爾酸「フヰノール」(Salolum. Phenolum salicylicum)

「ストロフアンツス」子(Semen Strophanthii)

(Strophanthus 屬ノ種子)

「スルフオナール」「ヂメチールヂエチールスルフオンメタン」Sulfonalum. Dimethyldiäthylsulfonmethanum)

「タンニゲン」「アセチール」單寧(Tannigenum, Tannin acethylicum)

「ストロフアンツス」丁幾(Tinctura strophanthi)

「トリオナール」「メチールエチールヂエチールスルフオンメタン」(Trionalum. Methyläthylsulfonmethanum)

試藥

「ロゾール」酸溶液(Solutio Acidi rosolici)

亞爾加里性酒石酸銅溶液(Solutio Cupri tartarici natronata)

第二表

撒重失爾酸汞　硫酸比蘇斯如倔密涅

第三表

燐酸古埡乙涅　「ヂウレチン」

商陸越幾斯　「フオルマリン」

「グアヤコール」　鹽酸「ヘロイン」

「フナセチン」　「ストロフアンツス」子

「スルフオナール」「ストロフアンツス」丁幾

「トリオナール」

第四表

藥物ノ目	一回ノ極量	一日ノ極量
燐酸古埃乙涅	〇、一	〇、三
「ヂウレチン」	一、〇	六、〇
商陸越幾斯	〇、五	一、五
「ダアヤコール」	〇、三	一、〇
塩酸「ヘロイン」	〇、〇一	〇、〇三
撒里失爾酸汞	〇、〇二	〇、〇六
「フエナセチン」	一、〇	〇、〇〇三
硫酸比蘇斯知倔密涅	〇、〇〇一	〇、〇〇三
「スルフオナール」	二、〇	四、〇
「ストロフアンツス」丁幾	〇、五	一、五
「トリオナール」	二、〇	四、〇

●石川縣令第百三十號

娼妓健康診斷規則左ノ通定ム

明治三十三年十一月廿二日

石川縣知事　野村　政明

娼妓健康診斷規則

第一條　娼妓ノ健康診斷ハ娼妓檢査醫ヲシテ行ハシム

第二條　娼妓取締規則第九條ニ依ル健康診斷ハ毎週二回稼業地ノ娼妓健康診斷所ニ於テ受ク可シ

健康診斷ノ定日時ハ管轄警察署長之ヲ定ム

第三條　左ニ該當スル者ハ臨時檢査ヲ受ク可シ

一　休業者稼業セムトスルニ當リ前ノ受診日ヨリ起算シ三日ヲ經過シタルトキ

二　新ニ稼業スル者ニシテ登錄申請ノ塲合ニ

於ケル受診日ヨリ起算シ三日ヲ經過シタルトキ

三　傳染性ノ疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シタルトキ

四　前各號ノ外必要ニ依リ臨時ニ受診ヲ命シラレタルトキ

第四條　檢査當日事故ノ爲メ娼妓健康診斷所ニ出頭シ能ハサルトキハ其事由ヲ具シ該所ヘ届出ヘシ但疾患ニ係ルモノハ主治醫ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第五條　娼妓ハ健康診斷表用紙ヲ受領シ置キ受診ノ都度娼妓檢査醫ノ証印ヲ受ク可シ

第六條　娼妓取締規則第三條末項ニ依リ健康診斷ヲ受ケムトスル者ハ稼業ヲ爲サムトスル土地ノ娼妓健康診斷所ニ娼妓名簿登錄申請書ヲ携帶出頭シ診斷ヲ受ク可シ

第七條　娼妓檢査醫ニ於テ傳染性ノ疾患及黴毒感受ノ誘因トナル可キ症狀アリト診定シタル者ハ指定シタル病院ニ入リ治療ヲ受ク可シ但特別ノ事情アルトキハ其ノ住所ニ於テ警察官署ノ指定シタル醫師ノ治療ヲ受クルコトヲ得前項以外ノ疾患ハ其任意ノ醫師ニ就キ治療ヲ受クヘシ

附則

第八條　本令ハ明治三十三年十二月一日ヨリ施行ス但明治二十九年三月石川縣令第二十號娼妓身体檢査規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●石川縣令第百三十三號

明治三十二年三月石川縣令第二十號縣立驅黴院規則ヲ縣立娼妓病院規則ト改稱シ同則第一條及第

三條ヲ左ノ通改メ明治三十三年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十三年十一月廿七日

石川縣知事　野村　政明

第一條　本院ハ明治三十三年十二月石川縣令第百三十號娼妓健康診斷規則第七條第一項ノ疾患ヲ治療スル所トス

第三條中「縣立驅黴院」トアルヲ「縣立娼妓病院」ト改ム

石川縣令第百三十三號參照

縣立驅黴院規則

第一條　本院ハ明治二十九年三月石川縣令第二十號娼妓身体檢査規則第九條ノ疾患ヲ治療スル所トス

●石川縣訓令甲第四十八號

警察部

警察署

警察分署

娼妓健康診斷規則施行手續左ノ通定ム但明治二十九年三月廳第二三號娼妓身体檢査施行規則ハ本手續施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十三年十一月廿七日

石川縣知事　野村　政明

娼妓健康診斷規則施行手續

第一條　警察署長及警察分署長ハ檢査醫及取締ヲ指揮監督シ檢査當日ニハ警部又ハ巡査ヲ派遣スヘシ

第二條　警察署長ハ檢査醫及取締ノ進退ヲ警察部長ニ具申スヘシ

第三條　警察署長ニ於テ健康診斷所ノ位置ヲ定メ又ハ移轉シタルトキハ建造物ノ貸主ト締結シタル契約書ノ寫ヲ添ヘ警察部長ニ報告スヘシ

第四條　警察署長ニ於テ健康診斷ノ定日時ヲ定メタルトキハ警察部長ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條　檢査室ハ檢査醫ノ外入ル可カラス但監督ノ爲メ出張スル者ハ此限ニアラス

第六條　檢査醫ニ於テ傳染性疾患ハ勿論陰部ノ剝脫、裂傷、靡爛其ノ他肛門內外ノ靡爛等黴毒感受ノ誘因トナルヘキ疾患アリト診斷シタルトキハ娼妓健康診斷規則第七條ニ依リ治療ヲ受ケシムヘシ

前項ノ疾患アリタルトキハ第一號樣式ニ依リ管轄警察官署ヘ第二號樣式ニ依リ娼妓病院若ハ治療醫ニ通報スヘシ

第七條　娼妓健康診斷規則第七條第一項但書ノ醫師ハ檢査醫ヲ以テ充ツヘシ

第八條　檢査醫ハ各娼妓ノ診斷終ル每ニ第三號樣式ノ健康診斷表ニ健印又ハ病印ヲ捺シ交付スヘシ

第九條　檢査醫ニ於テ娠姙五ケ月以上又ハ稼業ニ堪ヘサル疾病ニ罹レルモノト診定シタル娼妓アルトキハ管轄警察官署ニ通報スヘシ

第十條　檢査當日病氣ノ爲メ健康診斷所ニ出頭シ能ハサル者アルトキハ定日ノ檢査ヲ終リタル後警察官吏ハ檢査醫及取締ト共ニ其寄寓所ニ就キ健康診斷ヲ行フ可シ但當日檢査ヲ要セスト認ムルトキハ此限ニアラス

第十一條　前條ノ患者入院スヘキ疾患アルモ重症ニシテ入院セシメ難キトキハ輕快ヲ俟テ入院セシムルコトヲ得

第十二條　檢査醫ハ娼妓健康診斷規則第六條ニ依リ健康診斷ヲナシタルトキハ診斷書ヲ交付スヘシ

第十三條　檢査醫ハ檢査中ノ事項ヲ簿册ニ登錄シ置キ第四號樣式ノ健康診斷表及病類表ヲ製シ翌月五日限リ管轄警察署長若ハ警察分署長ヲ經テ警部長ニ報告スヘシ

第十四條　取締ハ受診者ノ取締ニ從事スルノ外庶務ヲ處理スヘシ

第十五條　取締ハ娼妓ノ名簿ヲ製シ疾患ノ有無入院若ハ自宅治療停業等ヲ區別シ明瞭ニ記シ置クヘシ

（公文）

（第一、第二、第三及第四號樣式略ス）

Grausam.

„Nun, wie geht's mit Ihrer Krankheit?" —— „Danke —— im Prinzip darf ich jelzt schon ein Glas Bier pro Tag trinken !" —— „ Wie sall ich das verstehen?" —— „ Nun, der Arzt hat's mir erlaubt, aber meine Frau holt's mir nicht!"

Ausgleich.

„Sprechen Sie englisch?"

„Ja, aber sehr mangelhaft; nur wenn ich Jemanden treffe, der's eben so schlecht kann wie ich —— mit dem verständige ich mich vortrefflich.